

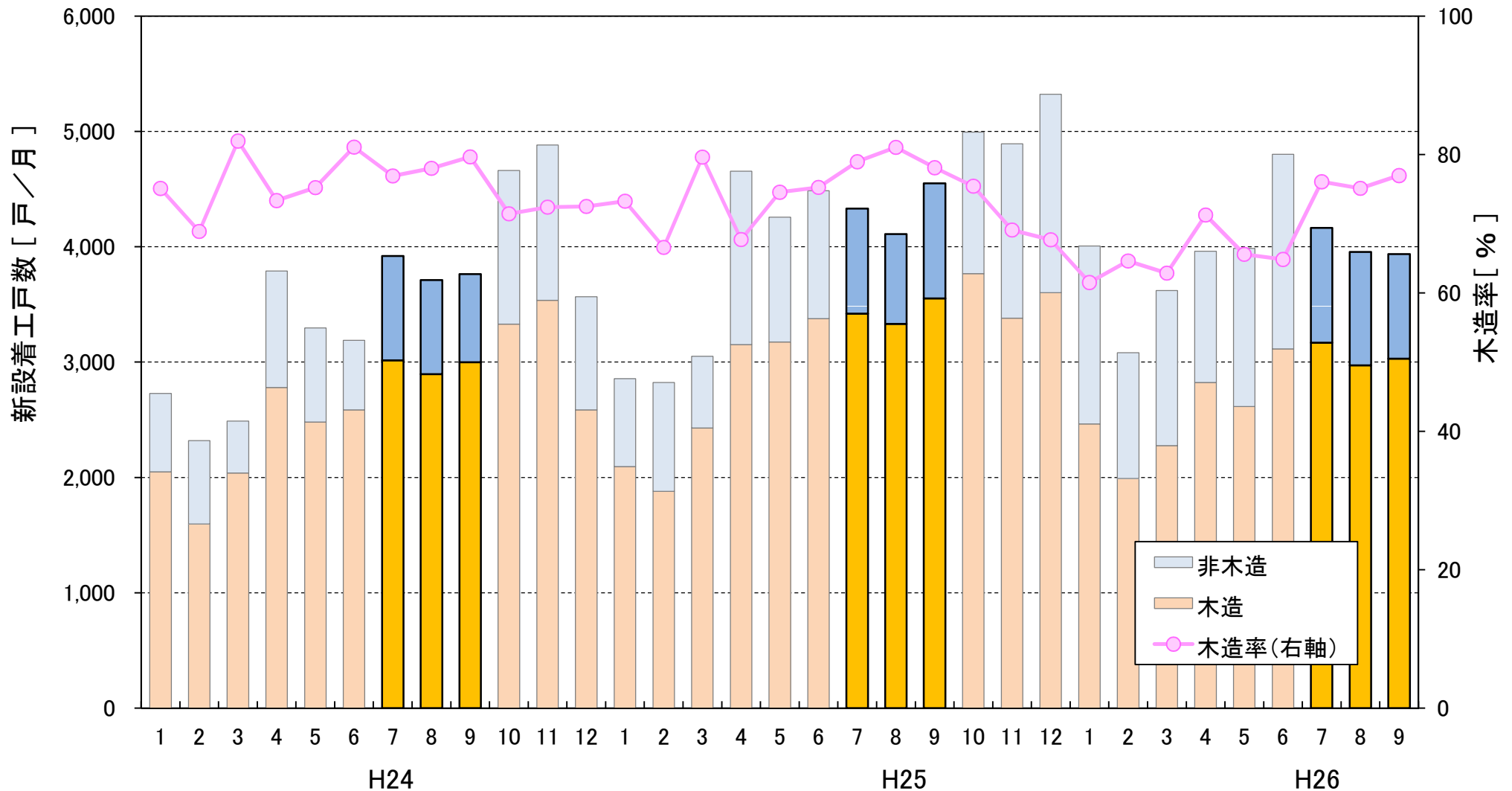
東北森林管理局管内の 木材価格等について

平成26年11月20日(木)

東北森林管理局

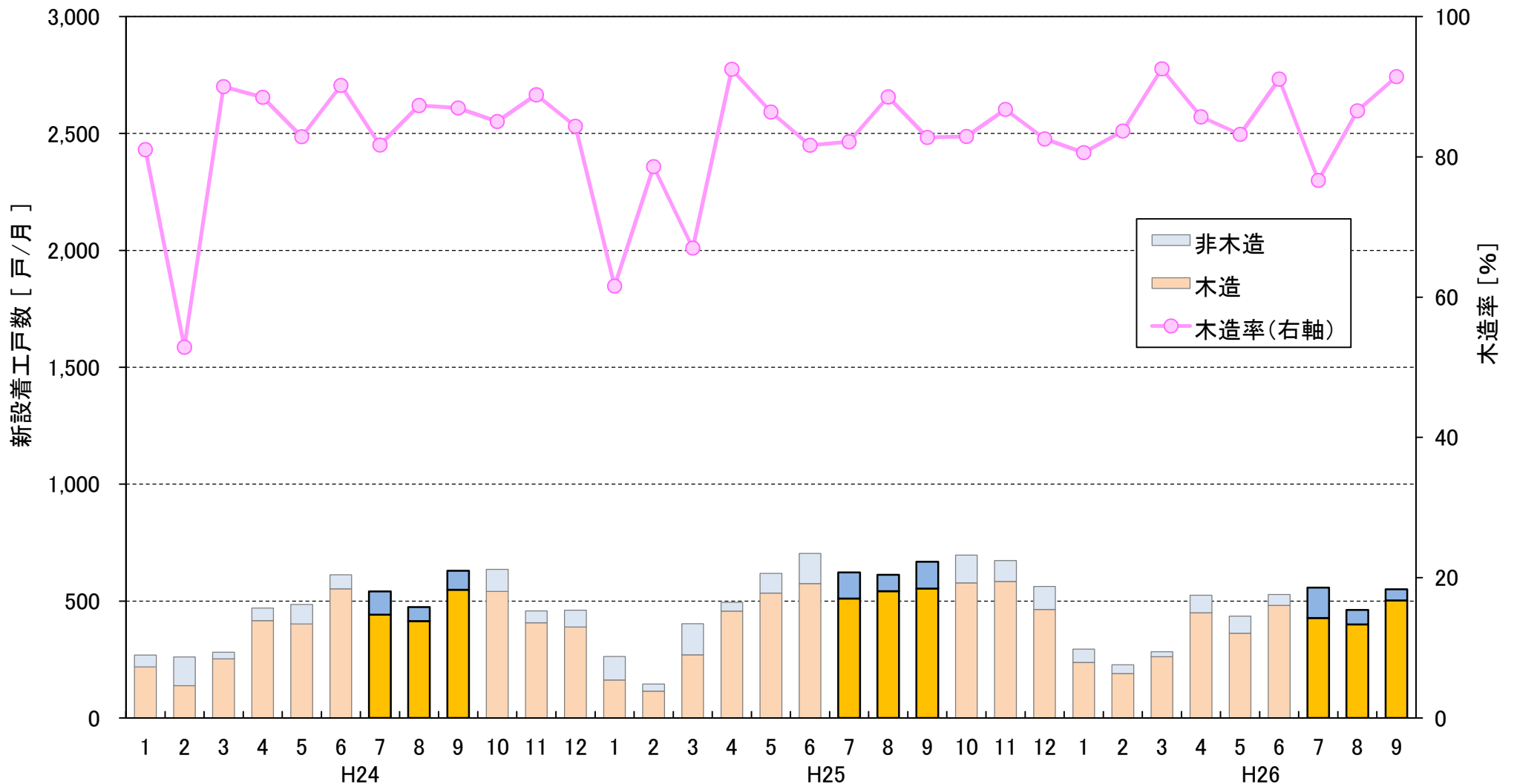
■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年9月)

- 東北5県の新設住宅着工戸数は3ヶ月連続で前年比減、3ヶ月連続で減少傾向。
平成26年第3四半期計では前年同期比-7%、24年同期比では+6%。
- 平成26年1～9月の木造率は69%で昨年同期の75%から低下。



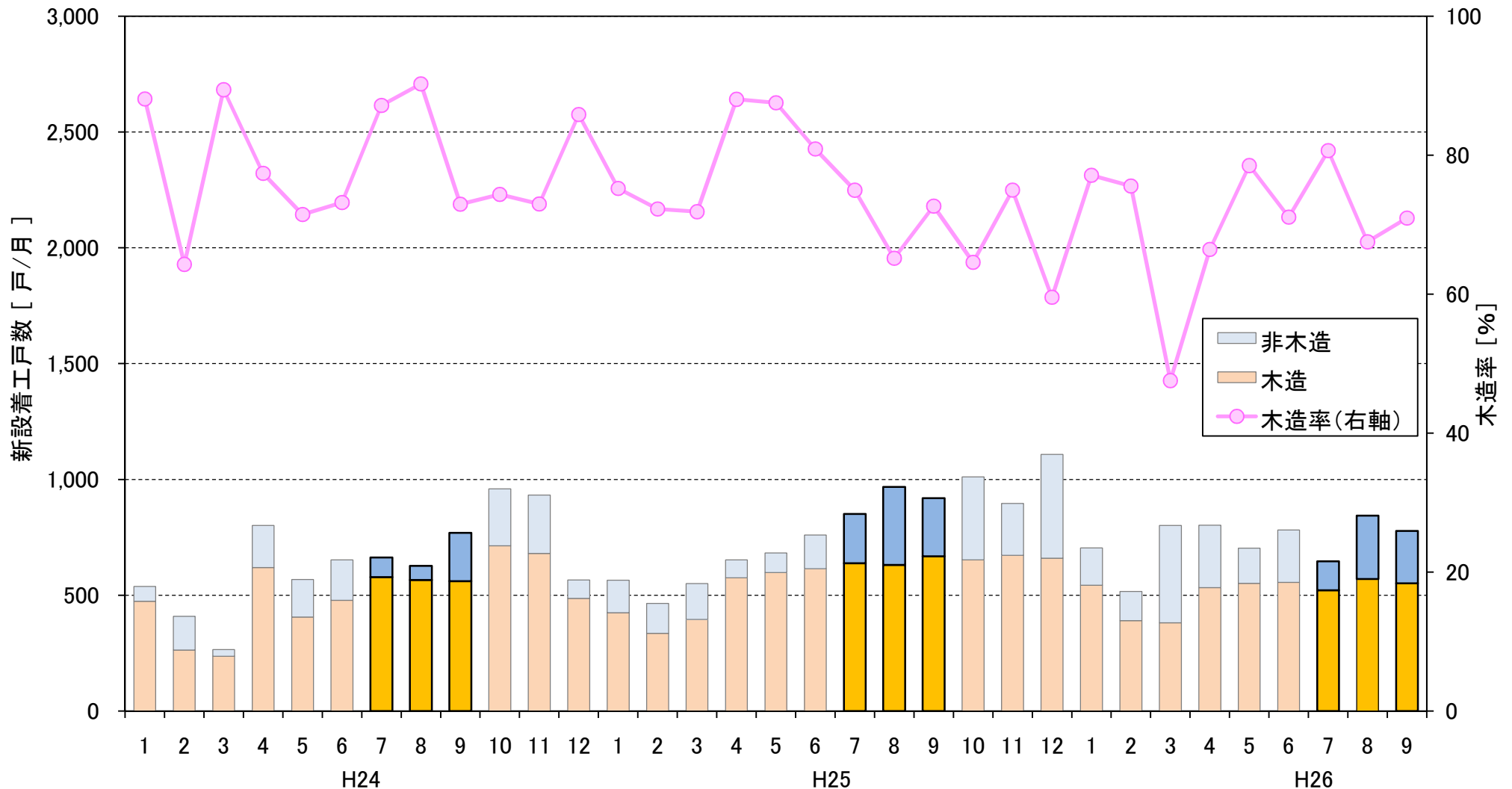
■ 青森県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年9月)

- 青森県の新設住宅着工戸数は第3四半期は前年比減少。
平成26年第3四半期は前年同期比－18%、24年同期比－5%。
- 平成26年1～9月の木造率は86%で昨年同期の82%から上昇。



■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年9月)

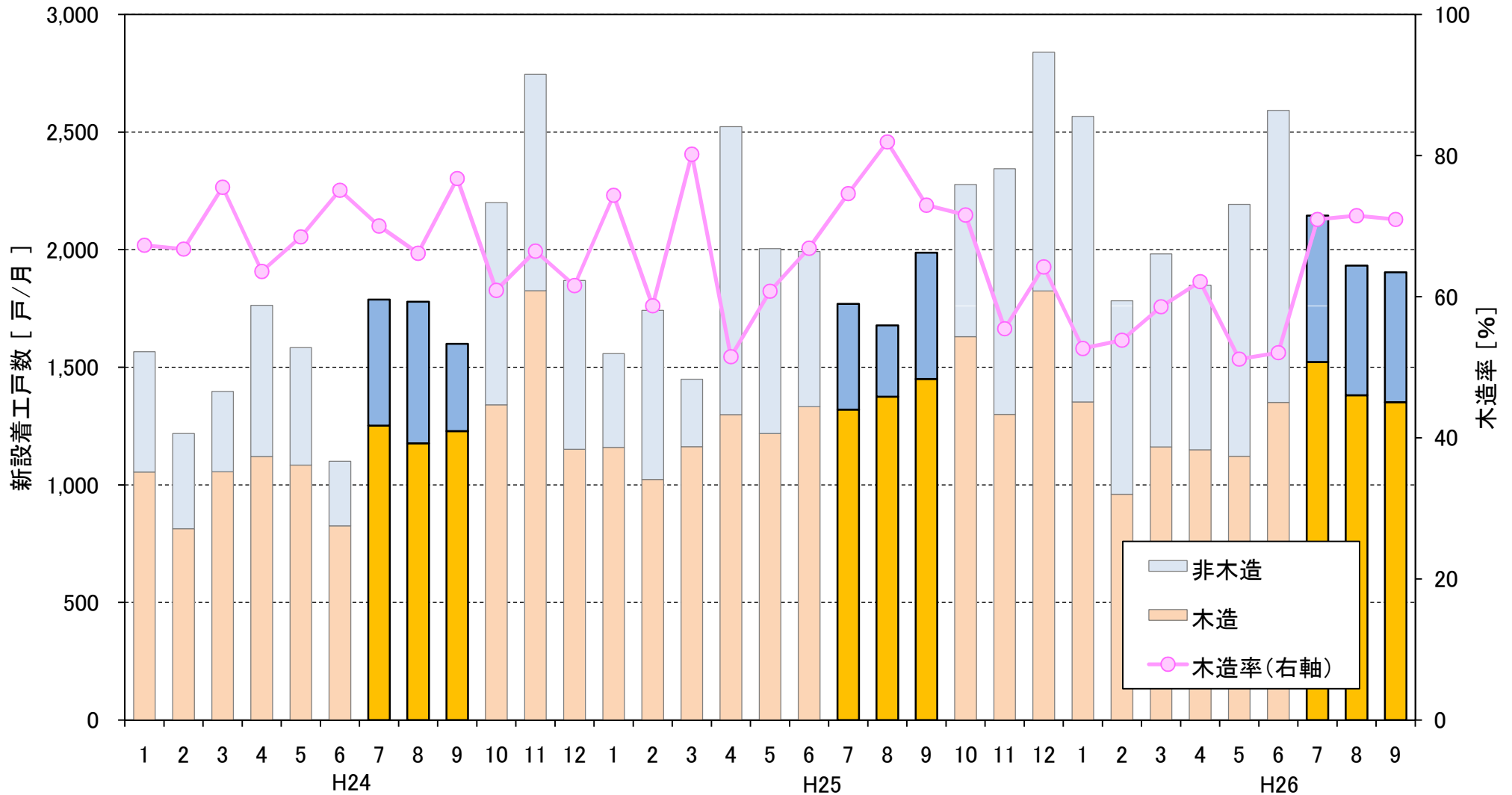
- 岩手県の新設住宅着工戸数は、第3四半期は前年比減少。
平成26年第3四半期は前年同期比-17%、24年同期比では+10%。
- 平成26年1～9月の木造率は70%で昨年同期の76%から低下。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

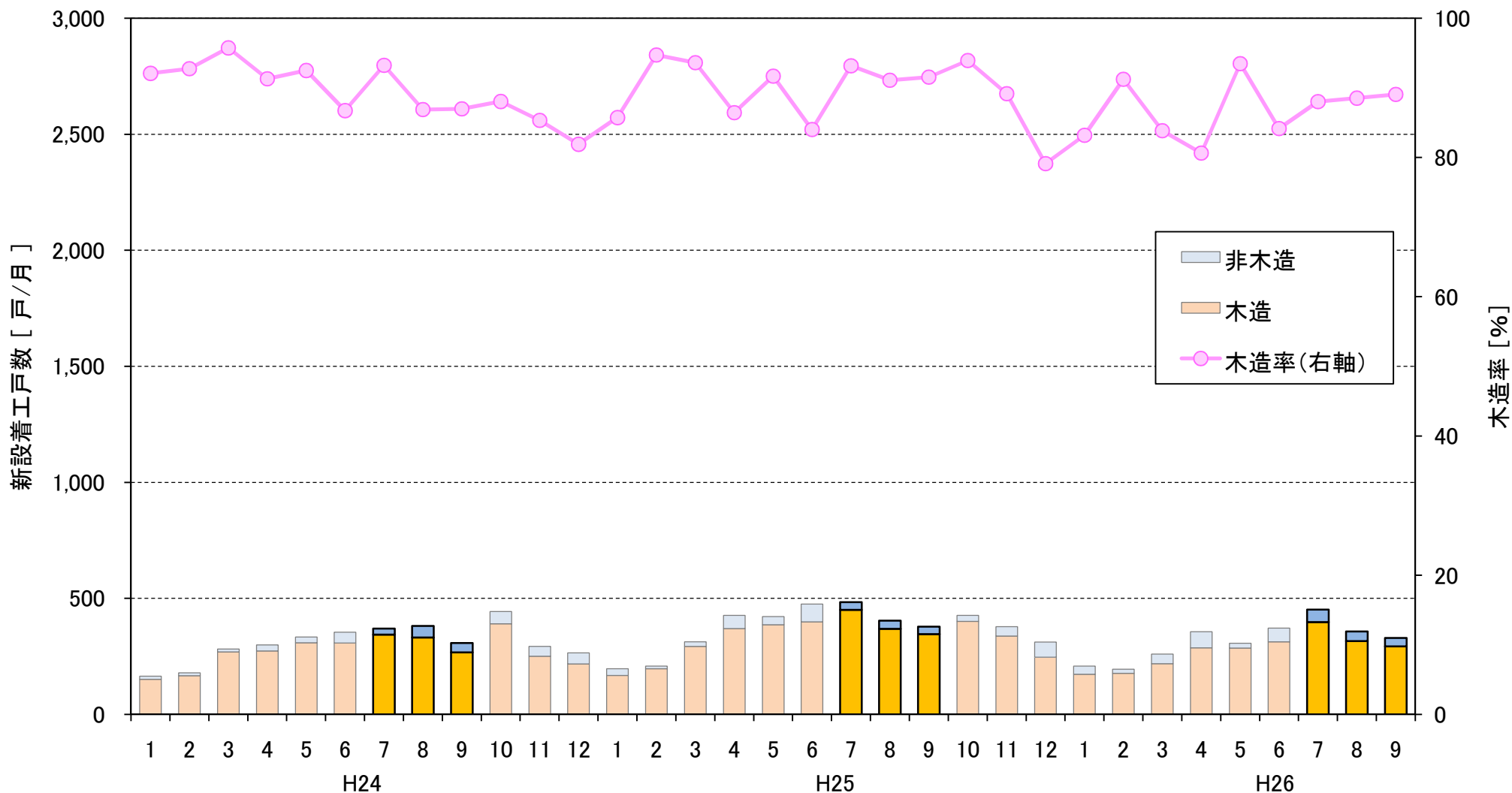
■ 宮城県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年9月)

- 宮城県の新設住宅着工戸数は、第3四半期は前年比で上回っているものの、9月は前年を下回っている。第3四半期は前年同期比+10%、24年同期比+16%。
- 平成26年1～9月の木造率は60%で前年同期の68%から低下。



■ 秋田県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年9月)

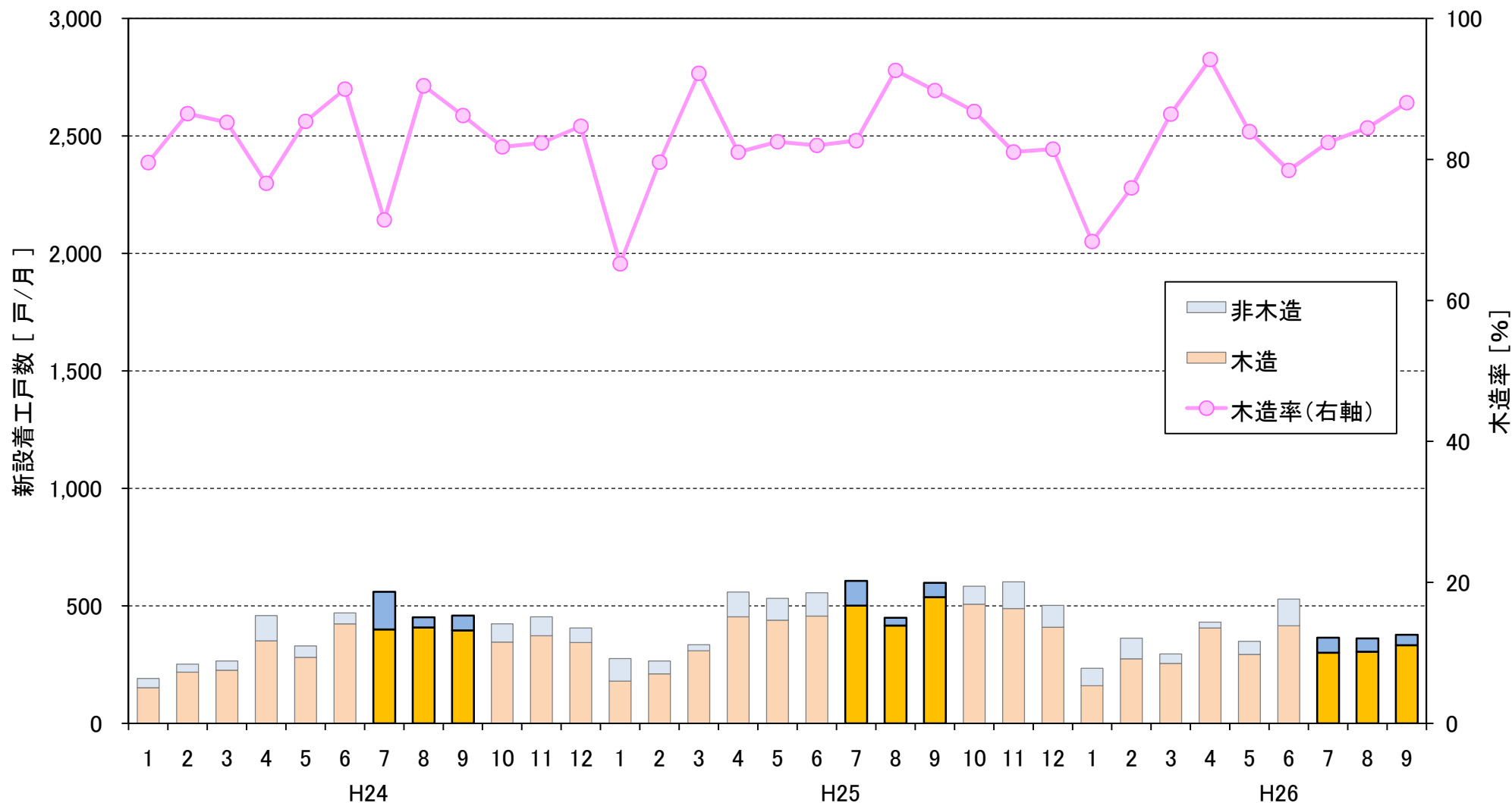
- 秋田県の新設住宅着工数は、8ヶ月連続で前年比減少。
平成26年第3四半期は、前年同期比-10%、24年同期比+8%。
- 平成26年1～9月の木造率は87%で、昨年同期の90%から低下。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

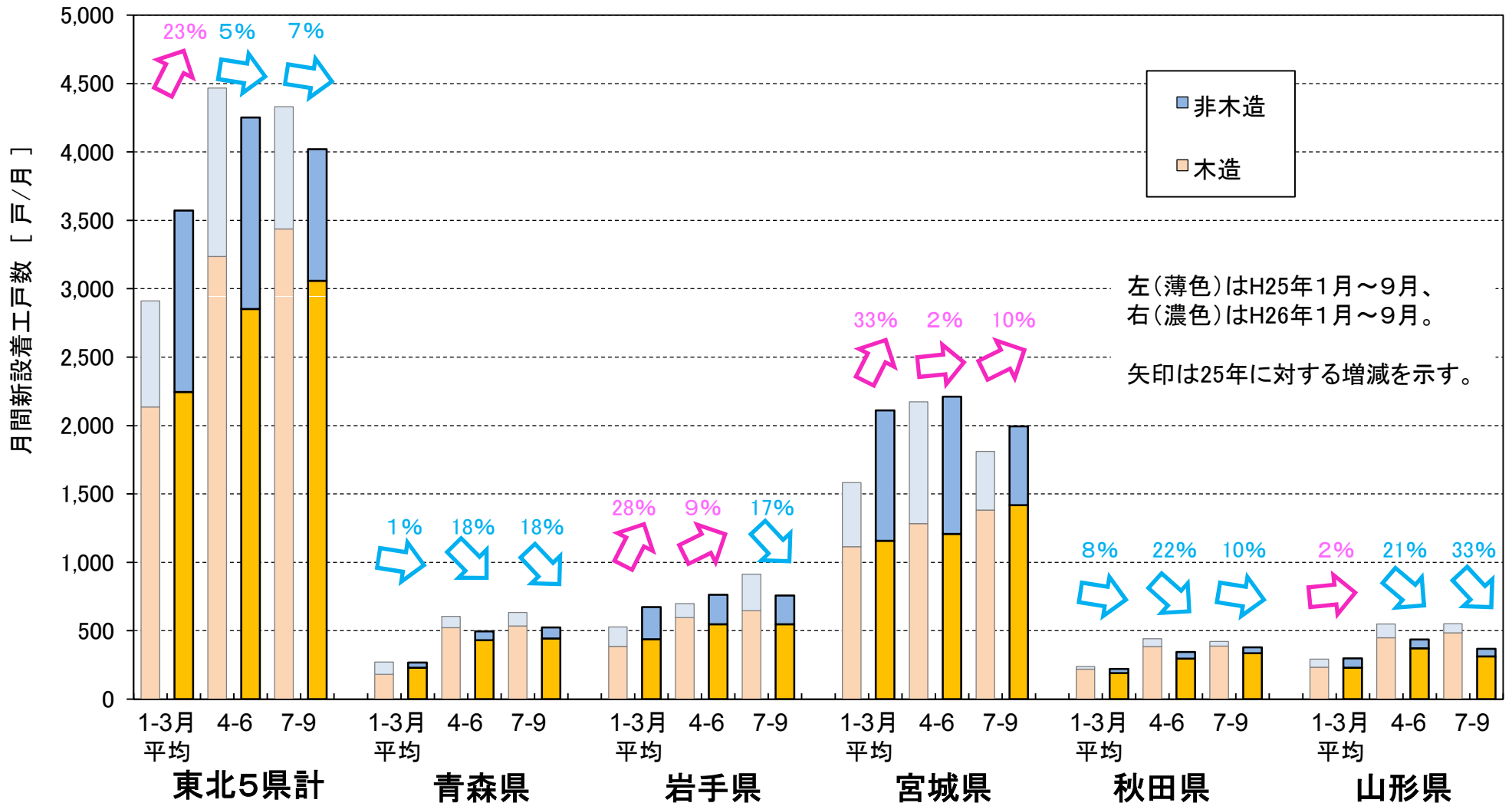
山形県の新設住宅着工戸数の推移 (平成24年1月～26年9月)

- 山形県の新設住宅着工数は7ヶ月連続で前年比減少。
平成26年第3四半期の新設住宅着工戸数は、前年同期比－33%、24年同期比－25%。
- 平成26年1～9月の木造率は83%で昨年同期の84%から低下。



消費増税前後の新設住宅着工戸数の変化（平成25年1～9月、平成26年1～9月）

○ 平成26年の四半期毎の前年比は、東北5県計は1～3月は+23%、4～6月は-5%、7～9月は-7%。県別では、青森・秋田が3期連続で前年比減少、山形は2期連続で減少、岩手は増加が続いていたものの7～9月に減少に転じ、宮城は増加傾向が続いているが9月は減少している。



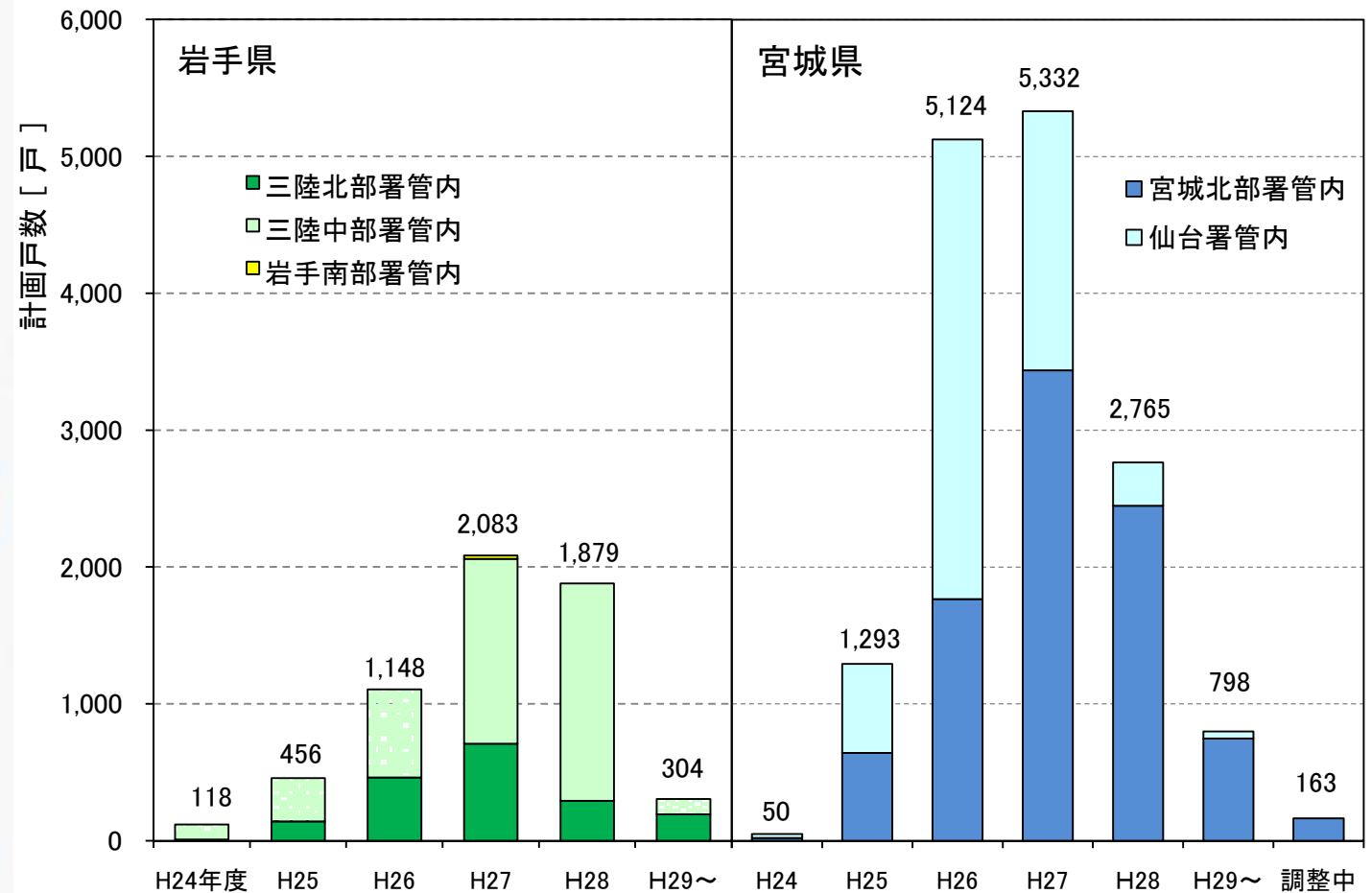
■ 岩手県及び宮城県における災害公営住宅の供給時期

- 新たな「住まいの復興行程表」によると、岩手県では、26～27年度建設予定分の585戸が28年度以降に繰り下がった。宮城県では、27年度までに工事終了の見込み戸数が210戸増加。
- 岩手県は平成27年度以降に供給される割合が71%。宮城県では同57%を占めている。

東北森林管理局管内図



災害公営住宅の供給時期

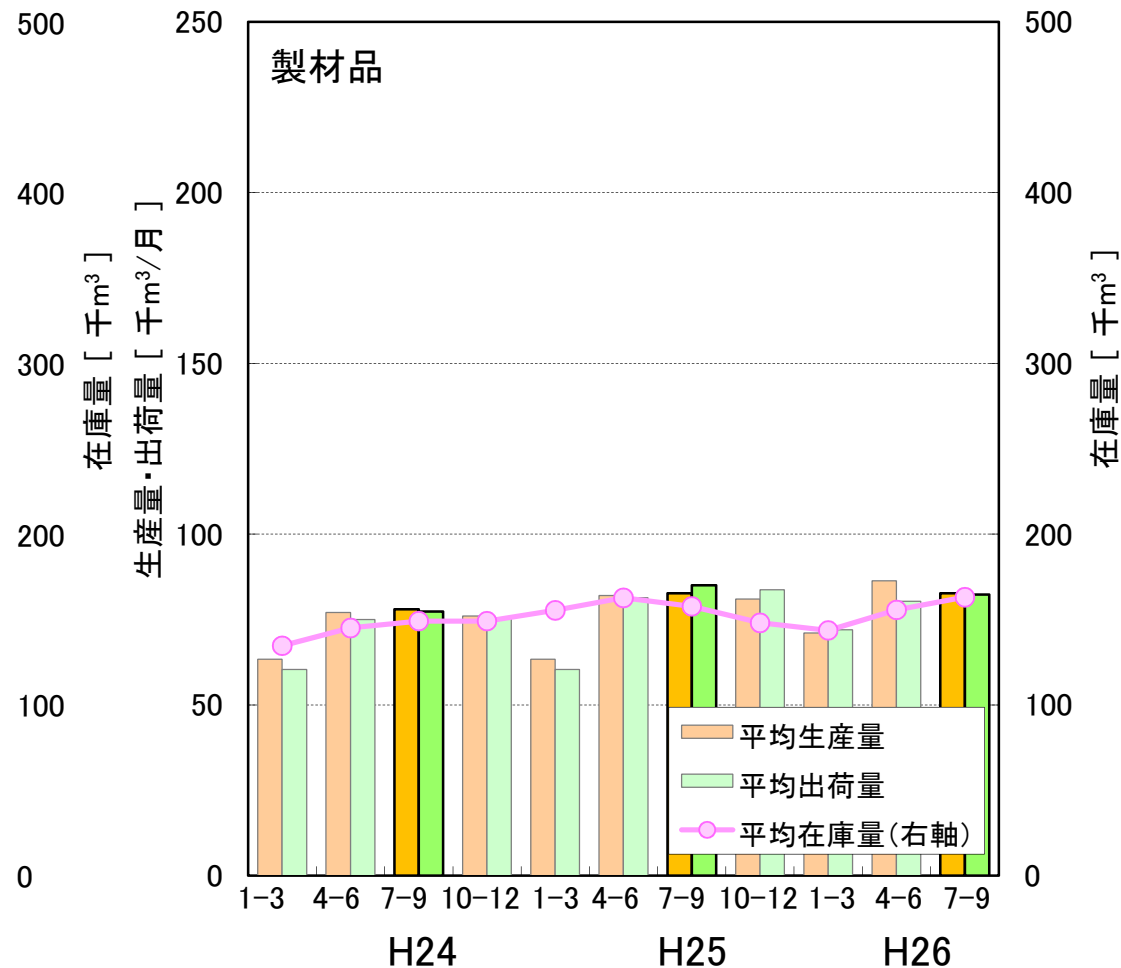
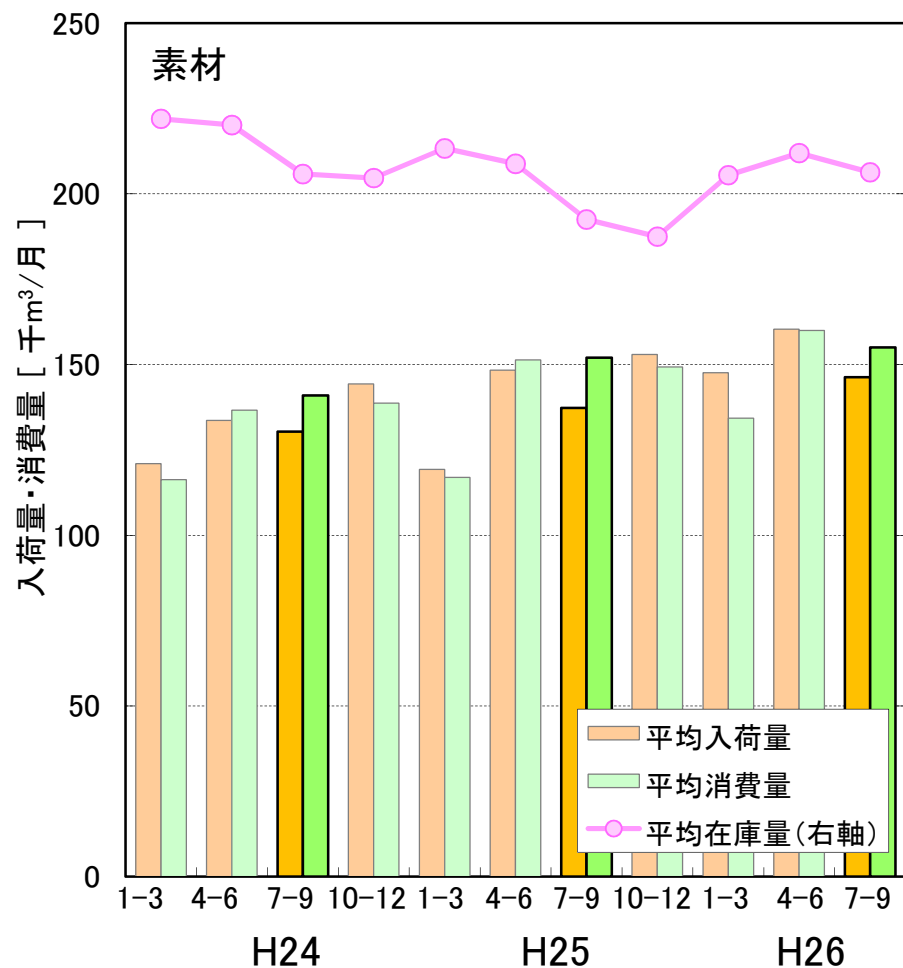


※「供給時期」…建物の引渡し時期、「調整中」…石巻市において、供給時期が確定していないもの

出典:復興庁「住まいの復興行程表(平成26年9月末現在)」11月4日公表、国土交通省「住宅着工統計」

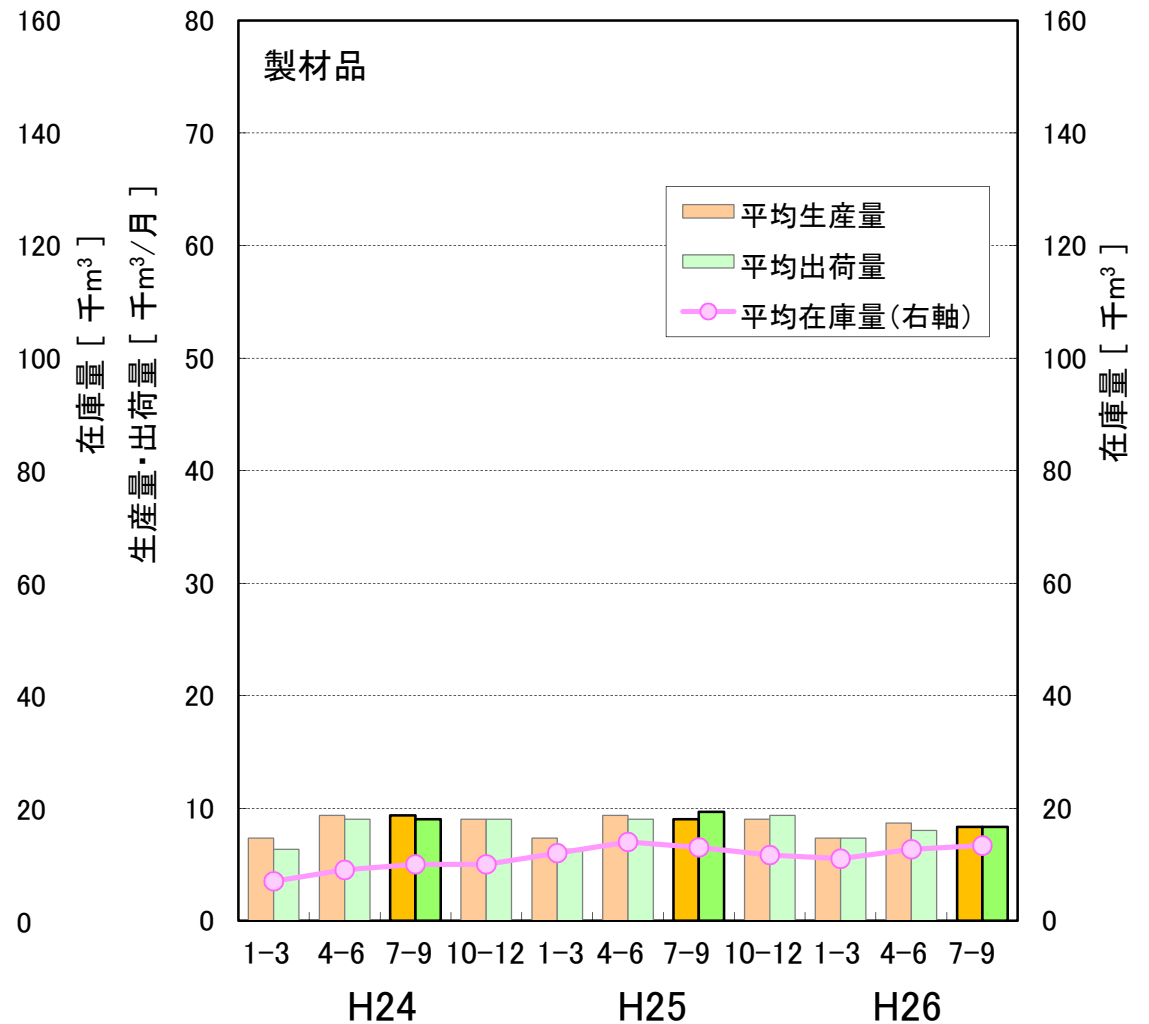
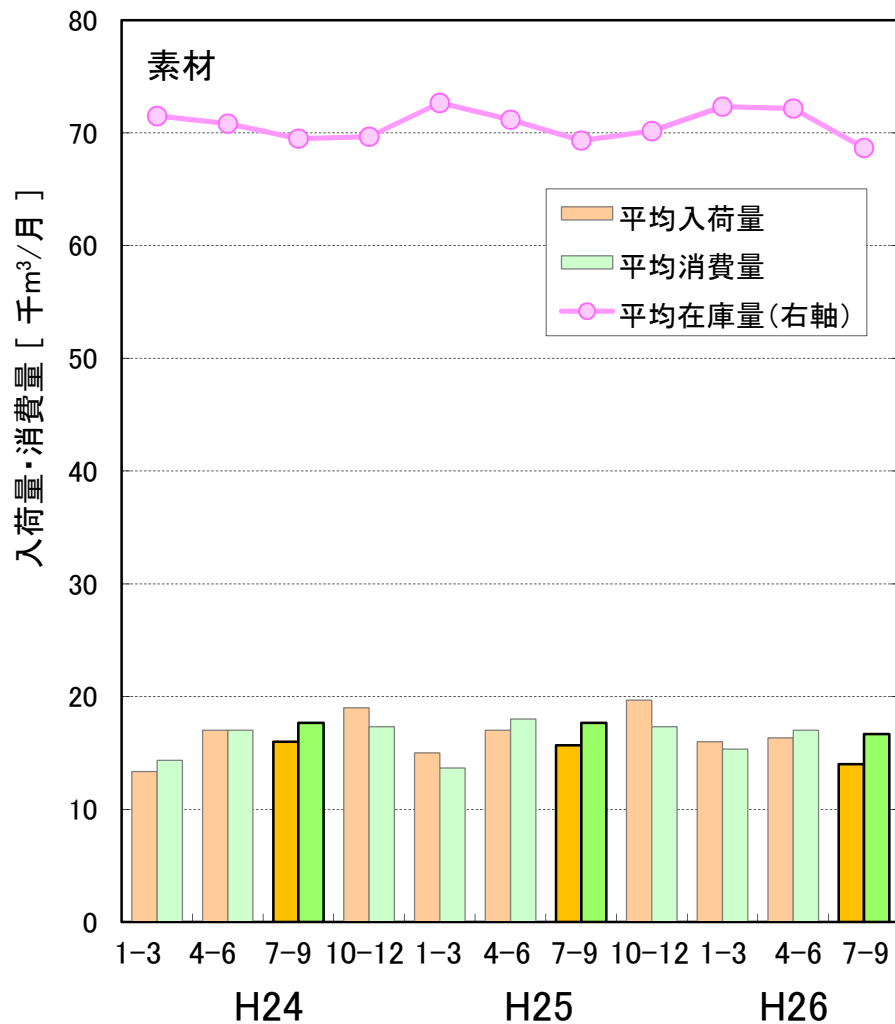
■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～26年9月）

- 製材用素材の平成26年第3四半期は消費量が入荷量を上回り、在庫量は減少した。製材品の在庫量は増加傾向。
- 製材用素材の平成26年第3四半期の入荷量は前年同期比+7%、24年同期比+12%、消費量は前年同期比+2%、24年同期比+10%でともに増加傾向。在庫量は前年同期比+7%、24年同期比±0%。
- 製材品の第3四半期の生産量は前年同期比±0%、24年同期比+6%。出荷量は前年同期比-3%、24年同期比+6%。在庫量は前年同期比+3%、24年同期比+9%。



■ 青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～26年9月）

- 製材用素材の平成26年第3四半期の入荷量は前年同期比－11%、24年同期比－12%。
消費量は前年同期比－6%、24年同期比－6%。在庫量は前年同期比－1%、24年同期比－1%。
- 製材品の第3四半期の生産量は前年同期比－7%、24年同期比－11%。
出荷量は前年同期比－14%、24年同期比－7%。在庫量は前年同期比＋3%、24年同期比＋33%。

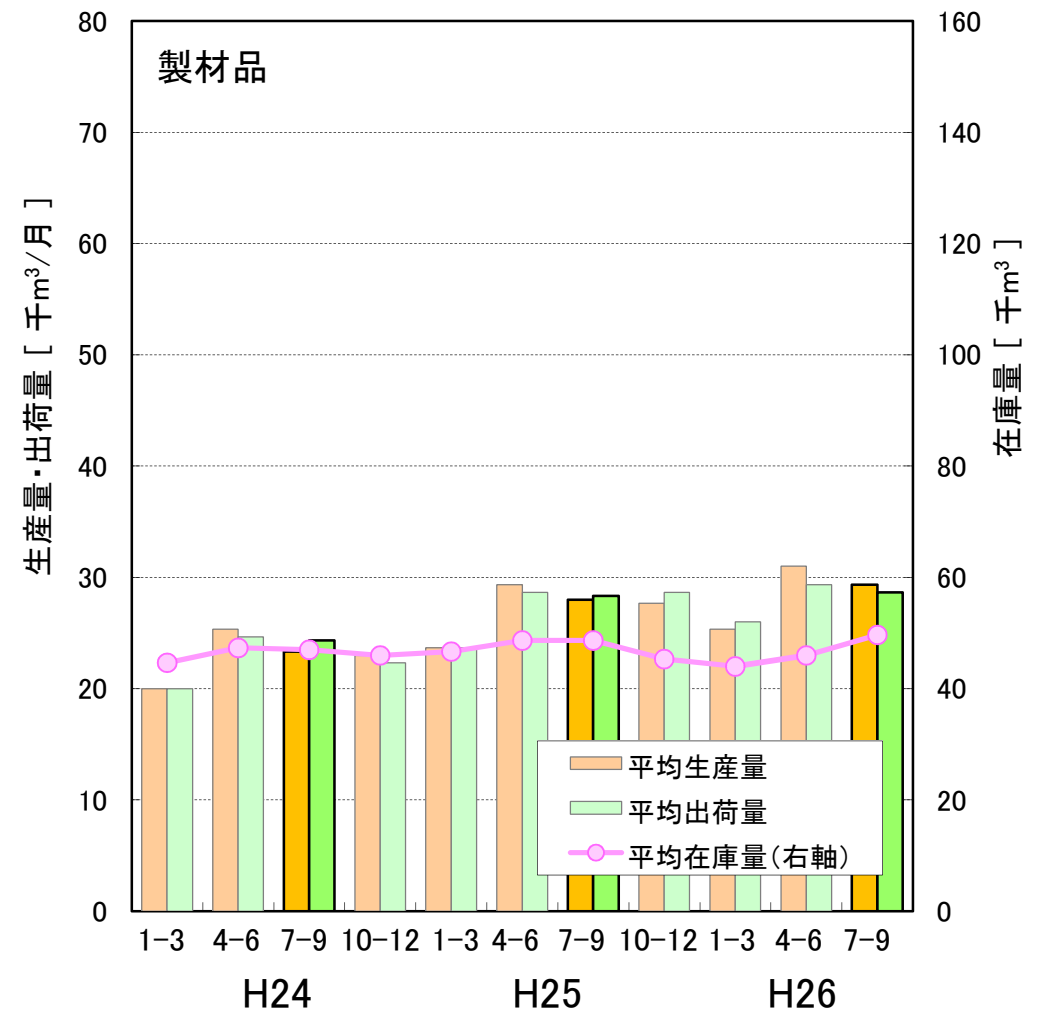
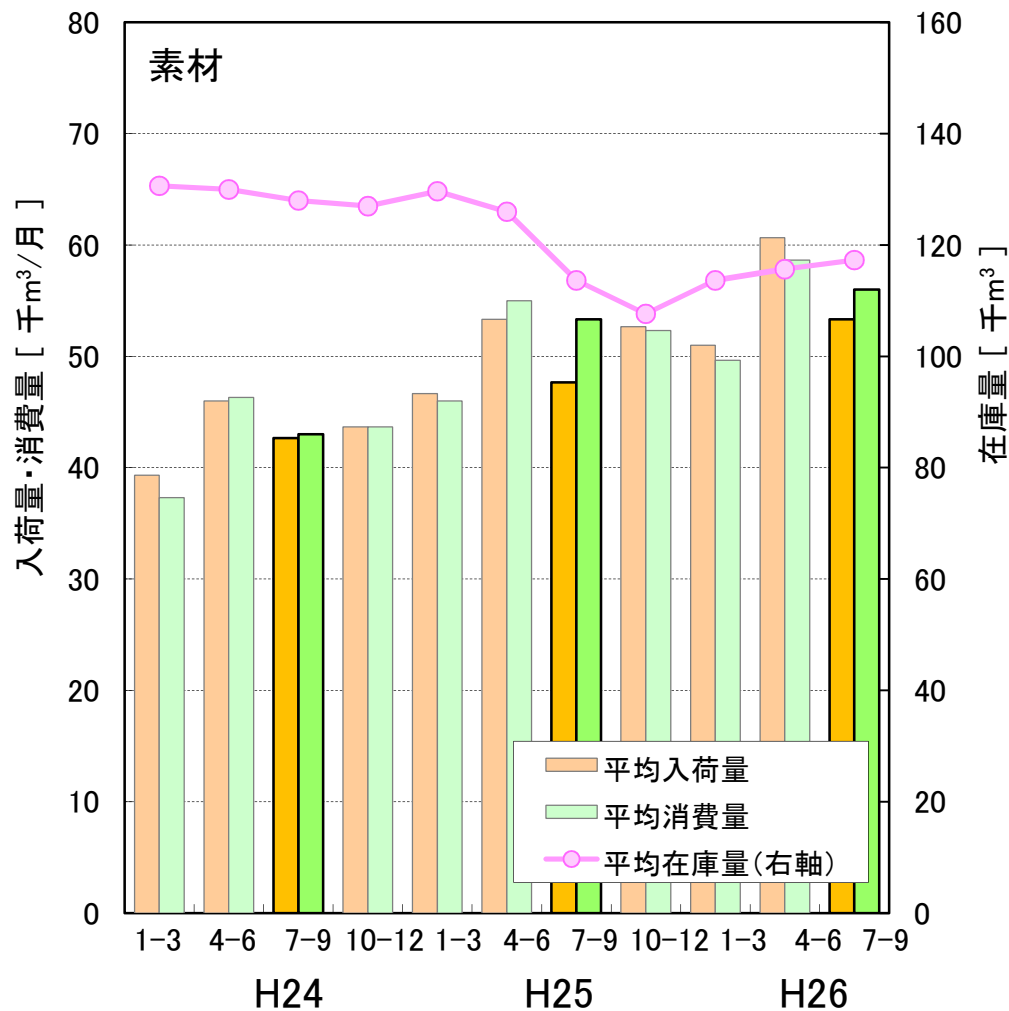


出典：農林水産省「木材需給報告書」、「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 岩手県の製材用素材・製材品の生産量の推移（平成24年1月～26年9月）

- 製材用素材の第3四半期の入荷量は、前年同期比+12%、24年同期比+25%。消費量は前年同期比+5%、24年同期比+30%でともに増加。在庫量は、前年同期比+3%、24年同期比-8%。
- 製材品の第3四半期の生産量は前年同期比+5%、24年同期比+26%。出荷量は前年同期比+1%、24年同期比+18%で素材同様増加。在庫量は前年同期比+2%、24年同期比+6%で増加。

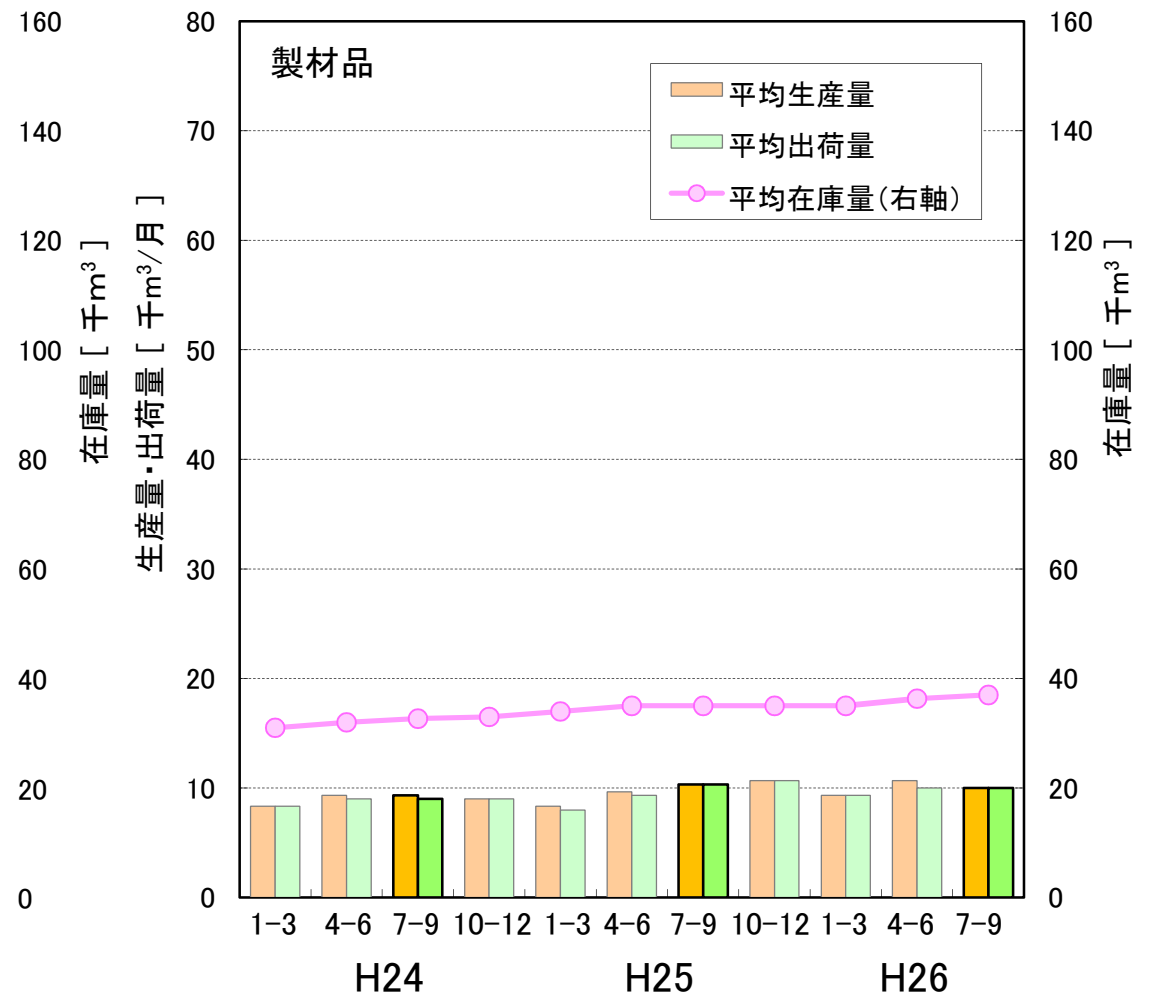
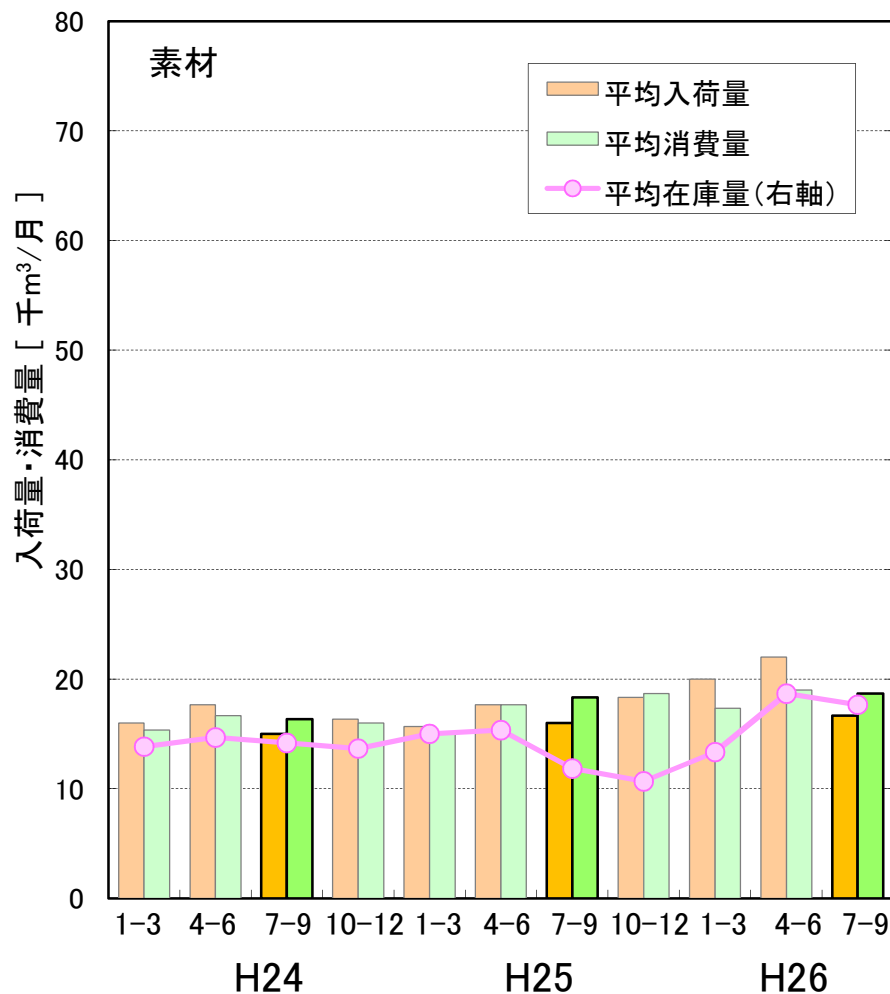


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～26年9月）

- 製材用素材の第3四半期の入荷量は、前年同期比+4%、24年同期比+11%。
消費量は前年同期比+2%、24年同期比+14%と増加。在庫量は前年同期比+49%、24年同期比+25%。
- 製材品の第3四半期の生産量は前年同期比-3%、24年同期比+7%。
出荷量は前年同期比-3%、24年同期比+11%。在庫量は前年同期比+6%、24年同期比+13%。

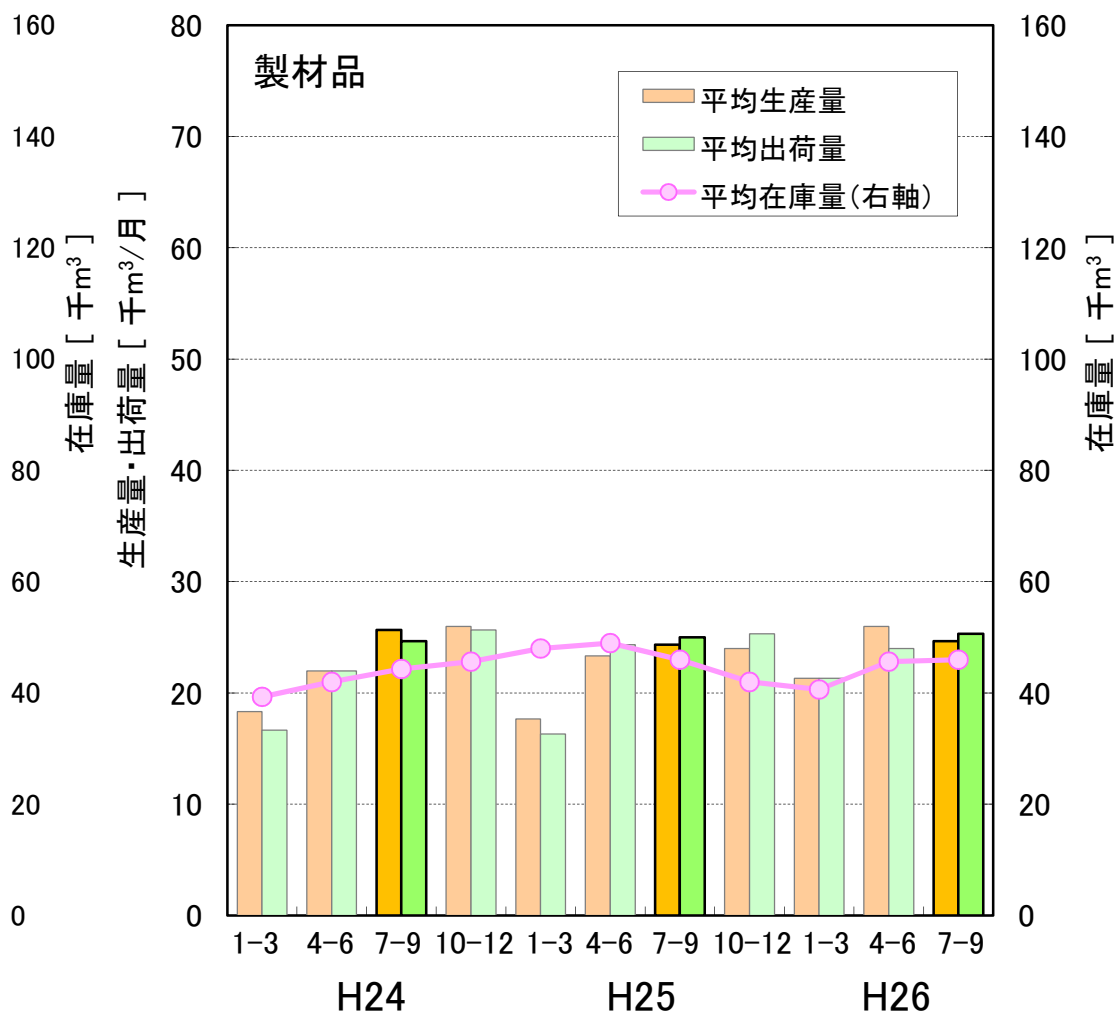
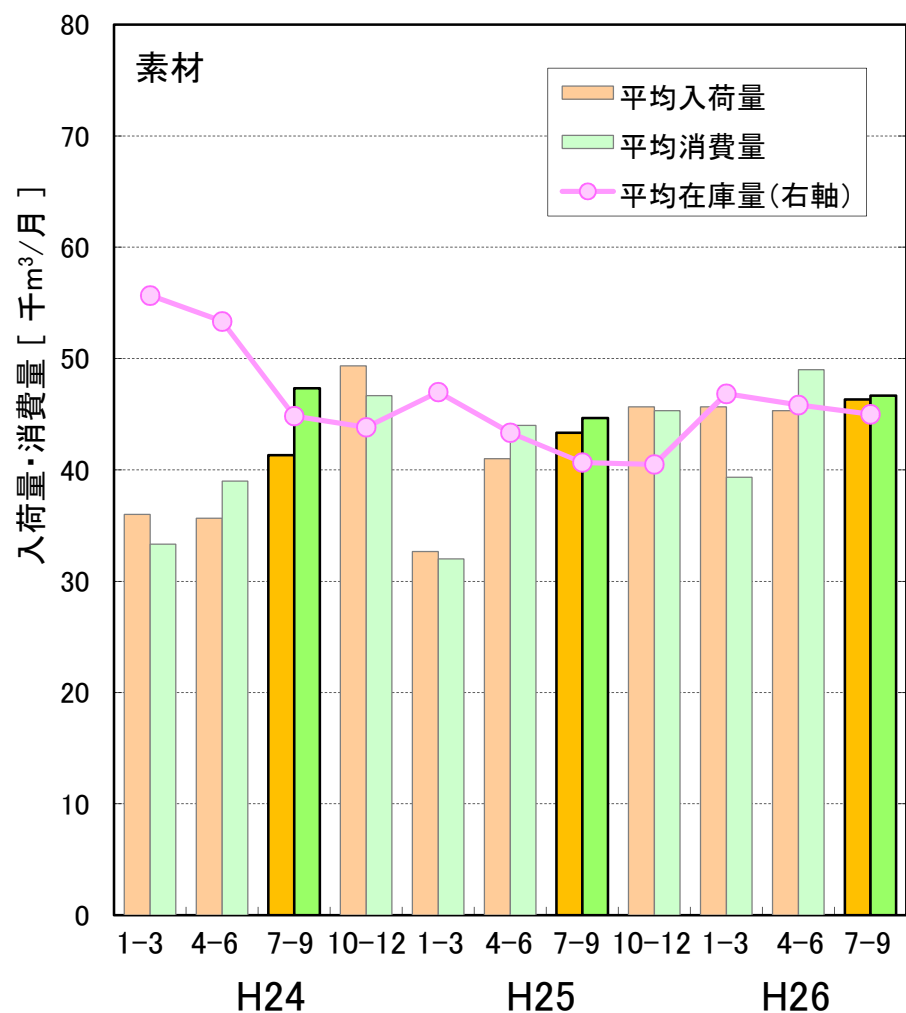


出典：農林水産省「木材需給報告書」製材統計

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年～26年9月）

- 製材用素材の第3四半期の入荷量は、前年同期比+7%、24年同期比+12%。
消費量は前年同期比+4%、24年同期比-1%。在庫量は前年同期比+11%、24年同期比±0%。
- 製材品の第3四半期の生産量は前年同期比+1%、24年同期比-4%。
出荷量は前年同期比+1%、24年同期比+3%。在庫量は前年同期比±0%、24年同期比+4%。

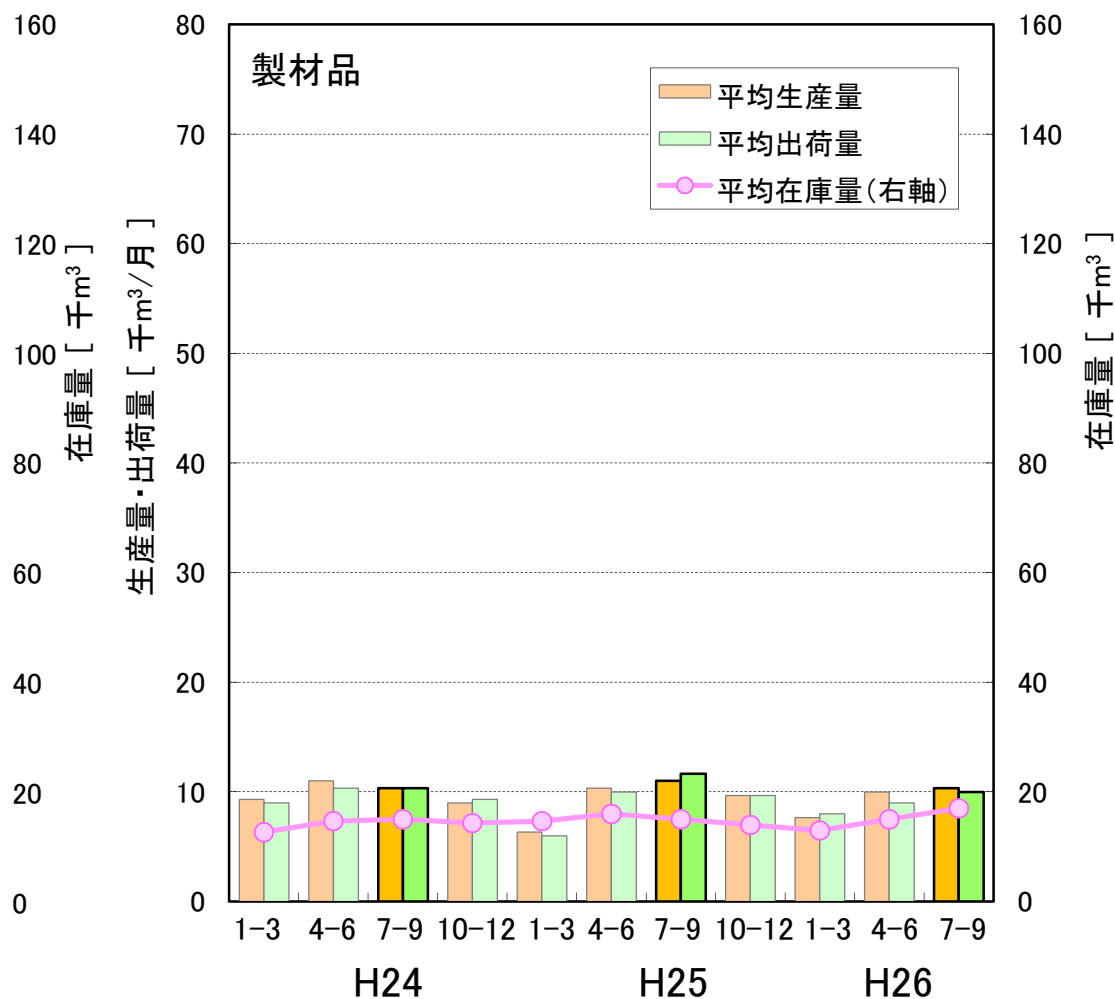
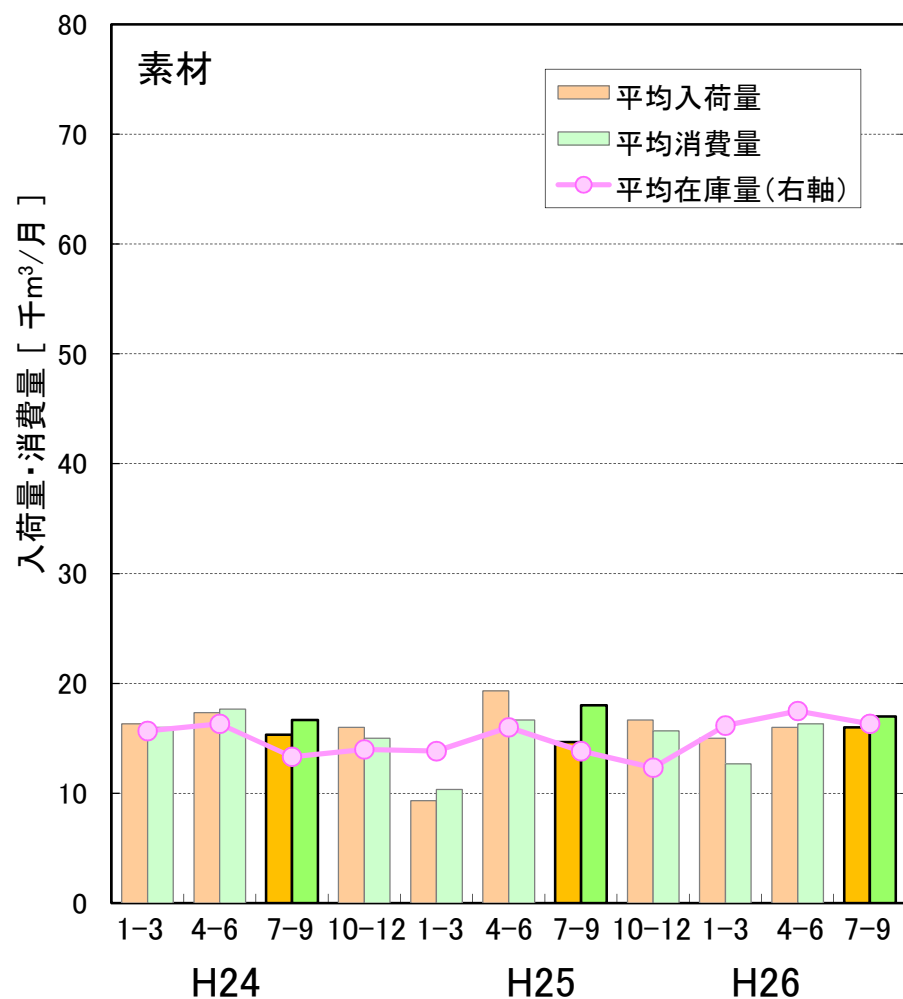


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成24年1月～26年9月）

- 製材用素材の第3四半期の入荷量は、前年同期比+9%、24年同期比+4%。
消費量は前年同期比-6%、24年同期比+2%。在庫量は前年同期比+18%、24年同期比+23%。
- 製材品の第3四半期の生産量は前年同期比-6%、24年同期比±0%。
出荷量は前年同期比-14%、24年同期比-3%。在庫量は前年同期比+13%、24年同期比+13%。

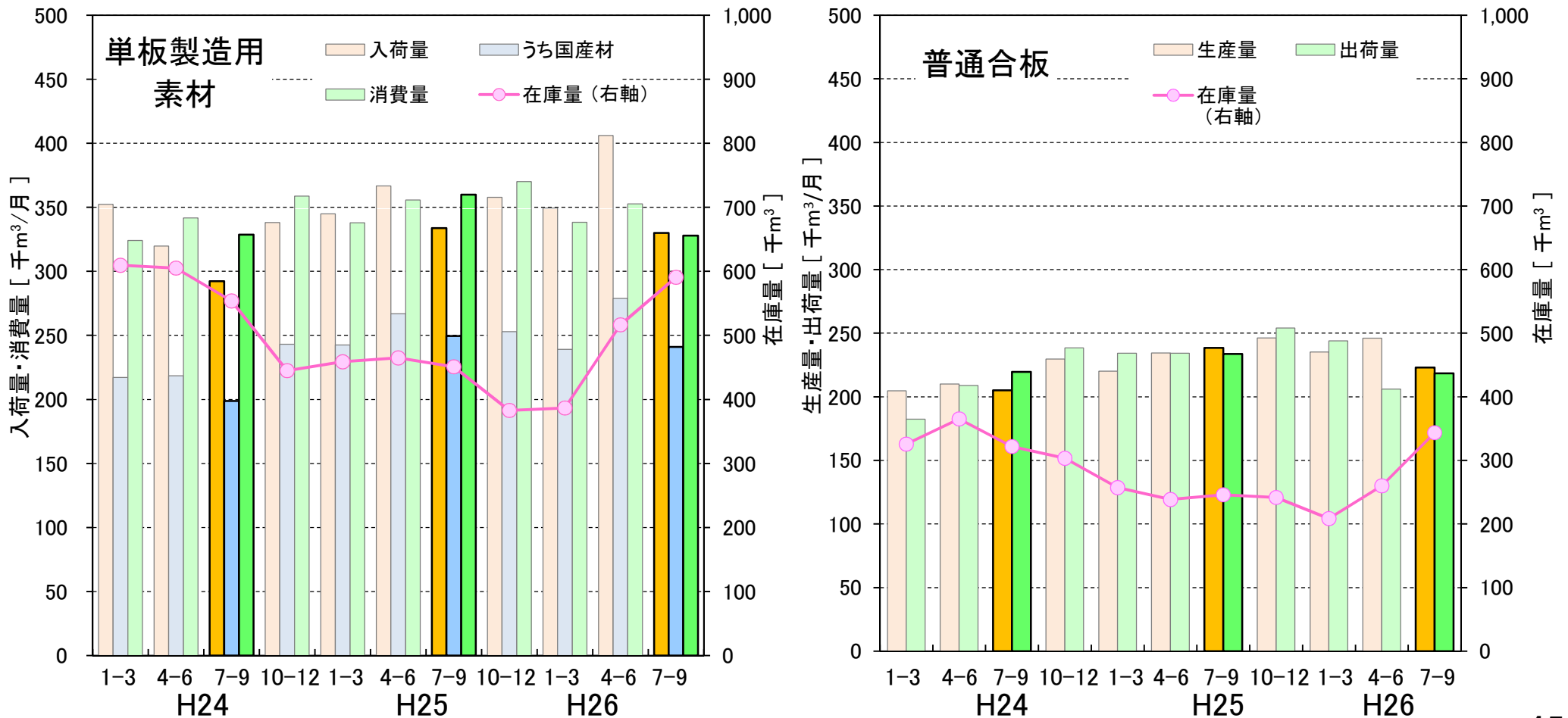


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成24年1月～26年9月）

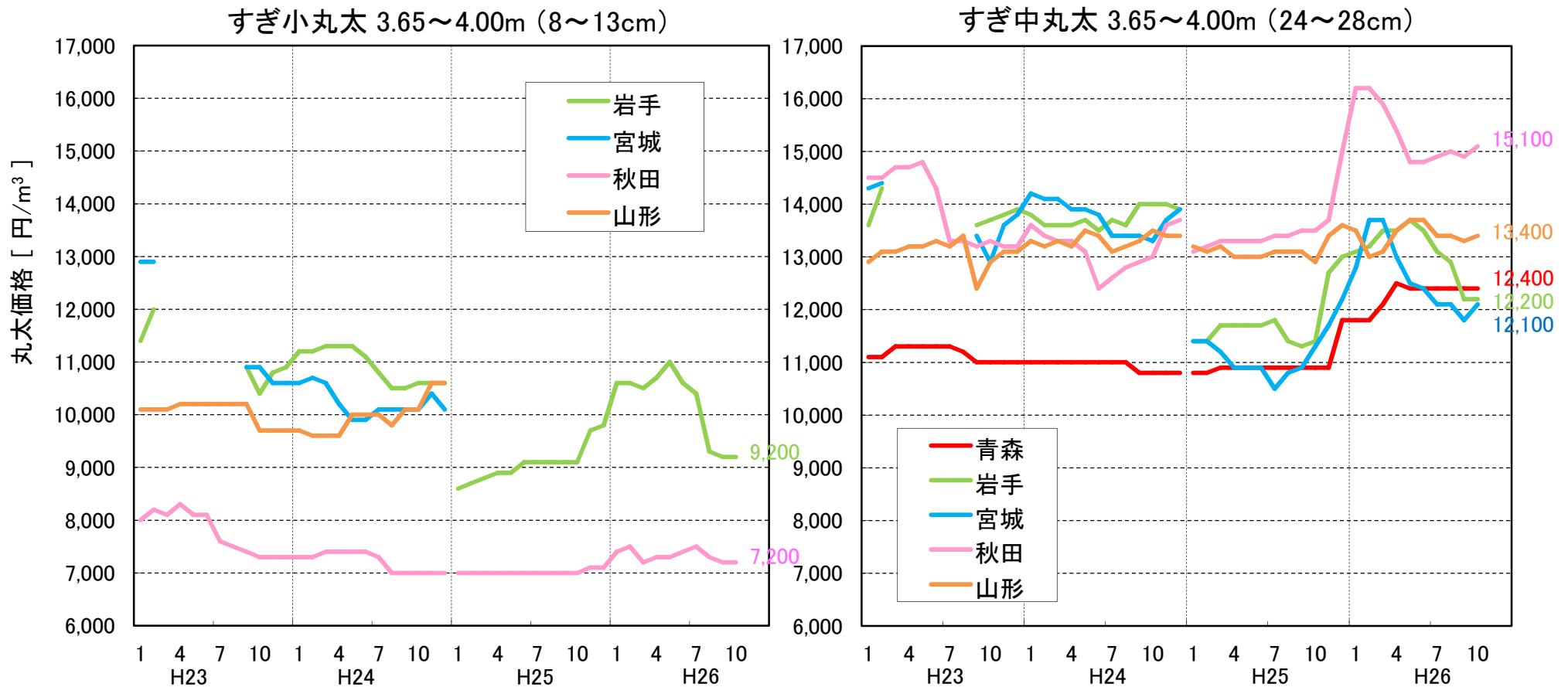
- 単板製造用素材の平成26年第3四半期の入荷量は第2四半期より－76千m³/月、消費量は－25千m³/月、在庫量は＋74千m³。
平成26年第3四半期の入荷量は前年同期比－1%、消費量は前年同期比＋9%、在庫量は前年同期比＋31%。
- 普通合板の平成26年第3四半期の生産量は第2四半期より－23千m³/月、出荷量は＋12千m³/月、在庫量は＋83千m³。
平成26年第3四半期の生産量は前年同期比－6%、出荷量は前年同期比－7%、在庫量は前年同期比＋40%。



出典：農林水産省「合板統計」

■ すぎ丸太価格の推移 (平成23年1月～平成26年10月)

- すぎ小丸太価格は、岩手は大きな価格の上下動があったが、前年とほぼ同水準になった。秋田はほぼ保合状態。
- すぎ中丸太価格は、青森は上昇後保合。岩手・宮城・秋田は大きく上下した後、昨年を上回る価格で落ち着いた。山形はほぼ保合状態。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

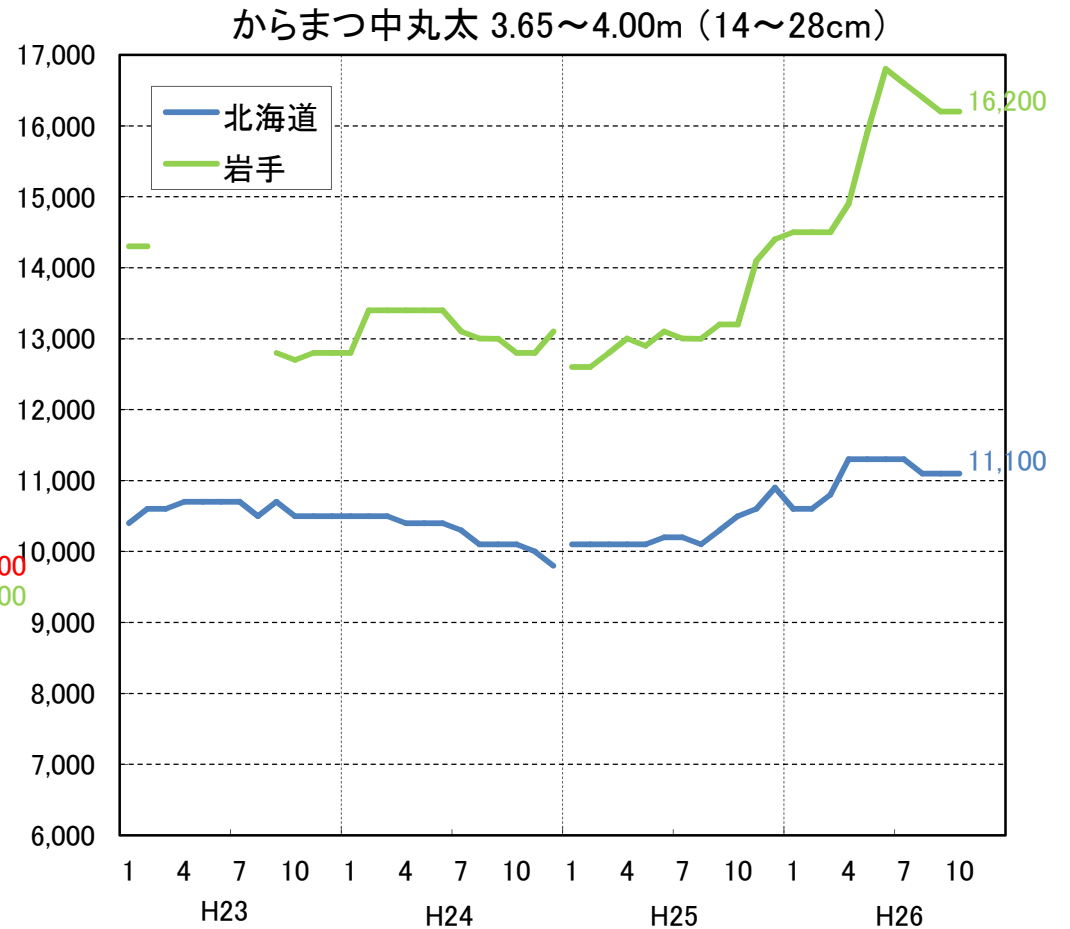
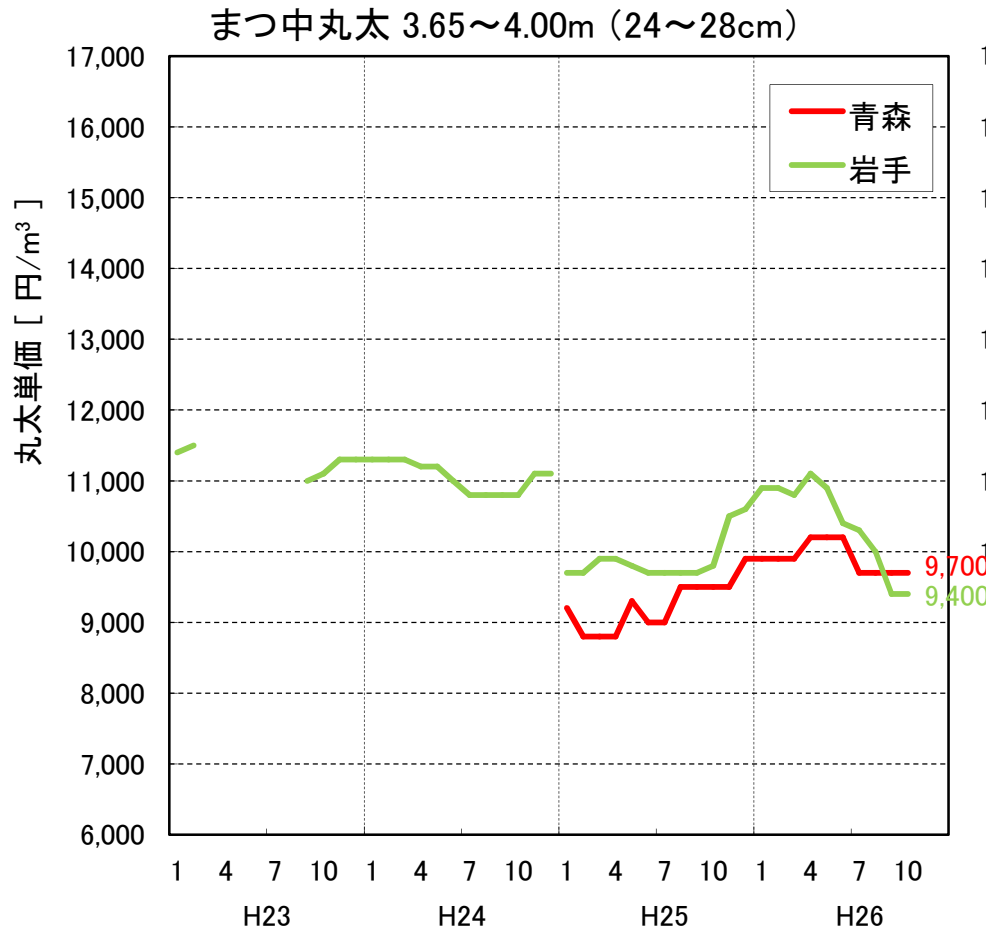
※ 価格は工場着価格

※ 平成23年3～8月は東日本大震災の影響で、岩手県のデータは未取得。

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ まつ・からまつ丸太価格の推移 (平成23年1月～平成26年10月)

- まつ丸太価格は、青森では7月から保合が続いている、岩手は5月以降下落が続いていたが、10月は9,400円で横ばいとなっている。
- からまつ丸太価格は、岩手が7月以降続いていた下落が16,200円で横ばいとなり、北海道より5,100円高い。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

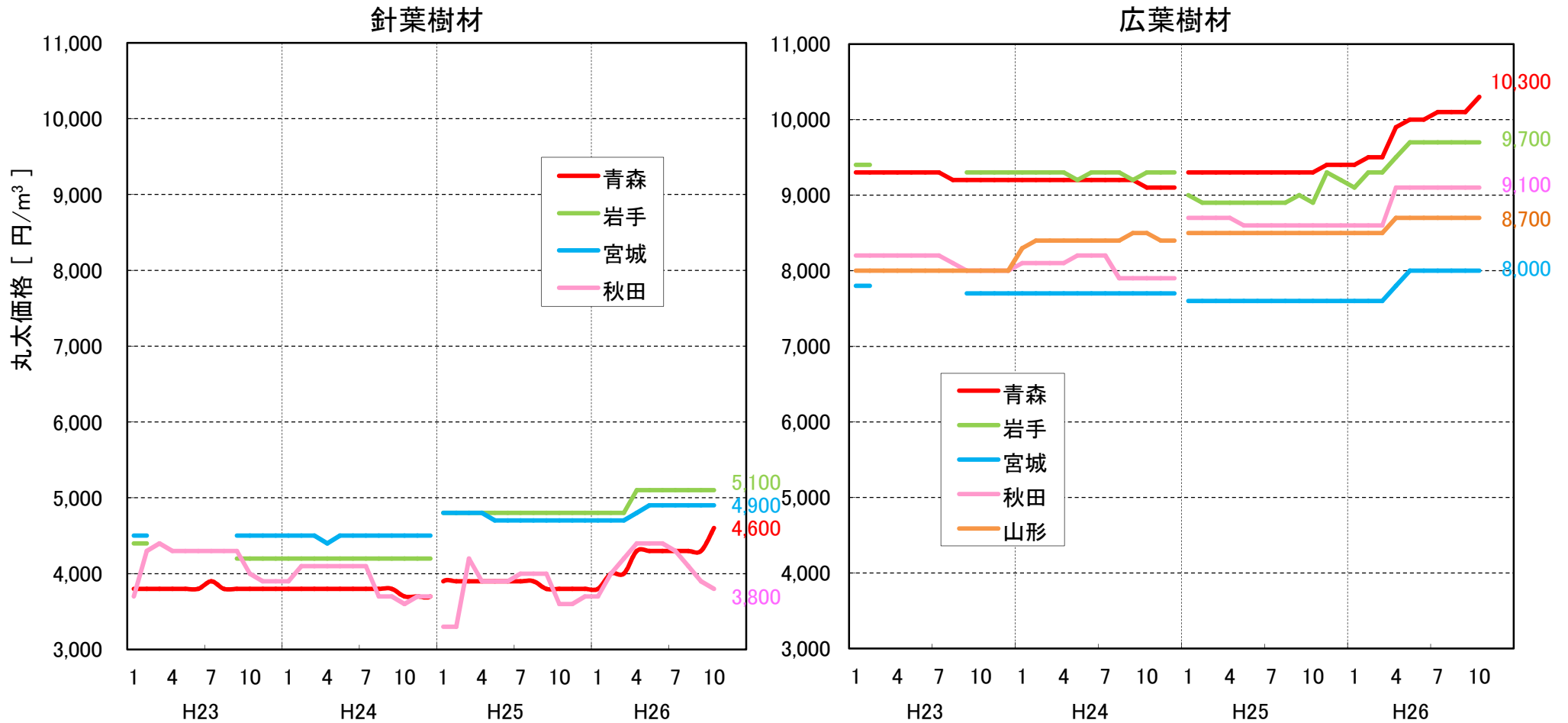
※ 価格は工場着価格

※ 平成23年3～8月は東日本大震災の影響で、岩手県のデータは未取得。

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■チップ用丸太価格の推移（平成23年1月～平成26年7月）

- チップ用針葉樹丸太は、青森では上昇、秋田では下落傾向にある。岩手・宮城は4～5月から保合状態。
- 広葉樹丸太は、青森は上昇傾向にあるが、他の4県は4～5月から保合が続いている。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

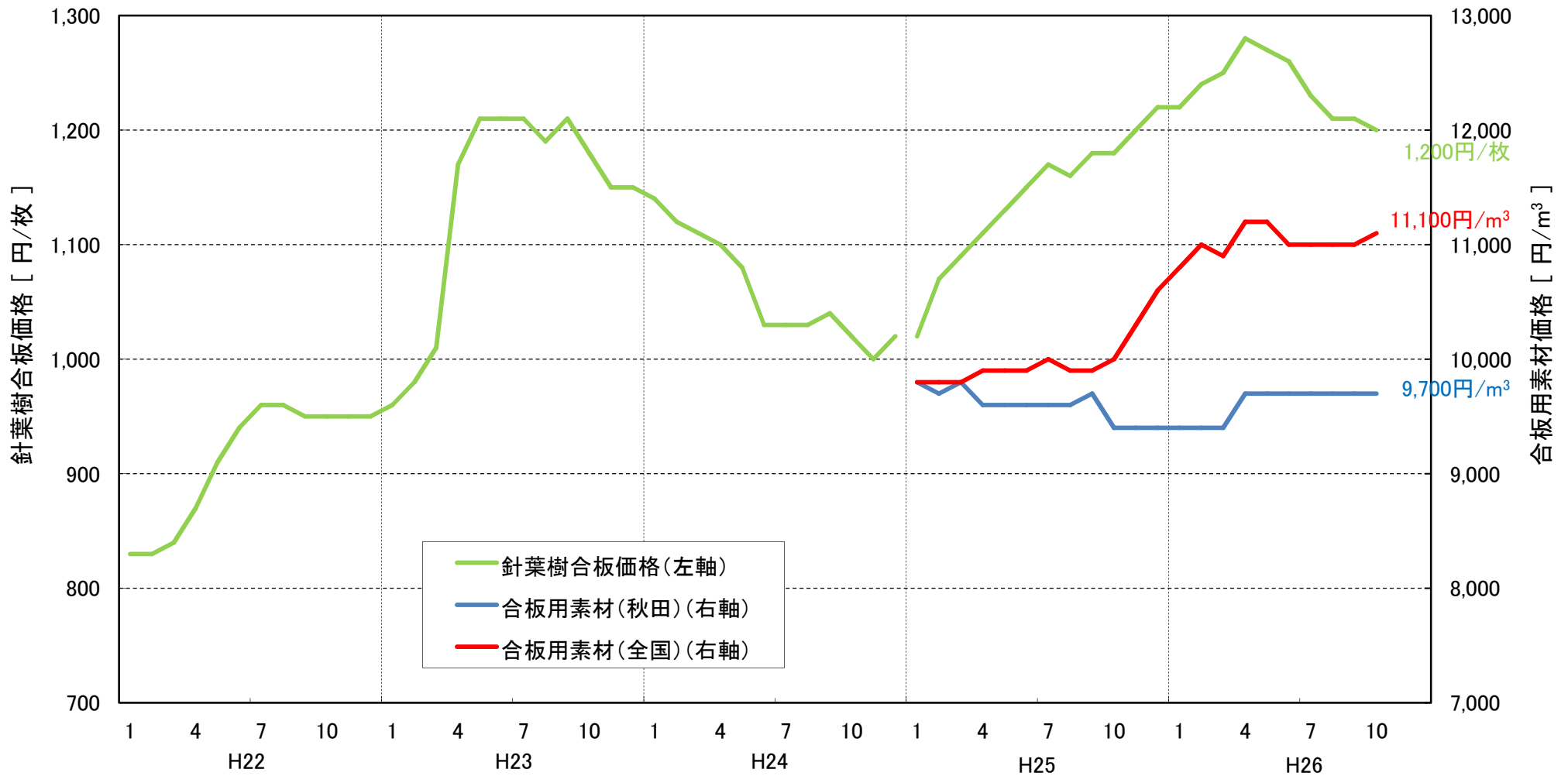
※ 価格は工場着価格

※ 平成23年3～8月は東日本大震災の影響で、岩手県・宮城県の詳細データは未取得。

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ 針葉樹合板及び合板用素材価格の推移（平成22年1月～平成26年10月）

- 針葉樹合板価格は、4月をピークに下落傾向にあったが、8月以降緩和。
- 合単板用素材価格は、秋田では4月以降横ばいである。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

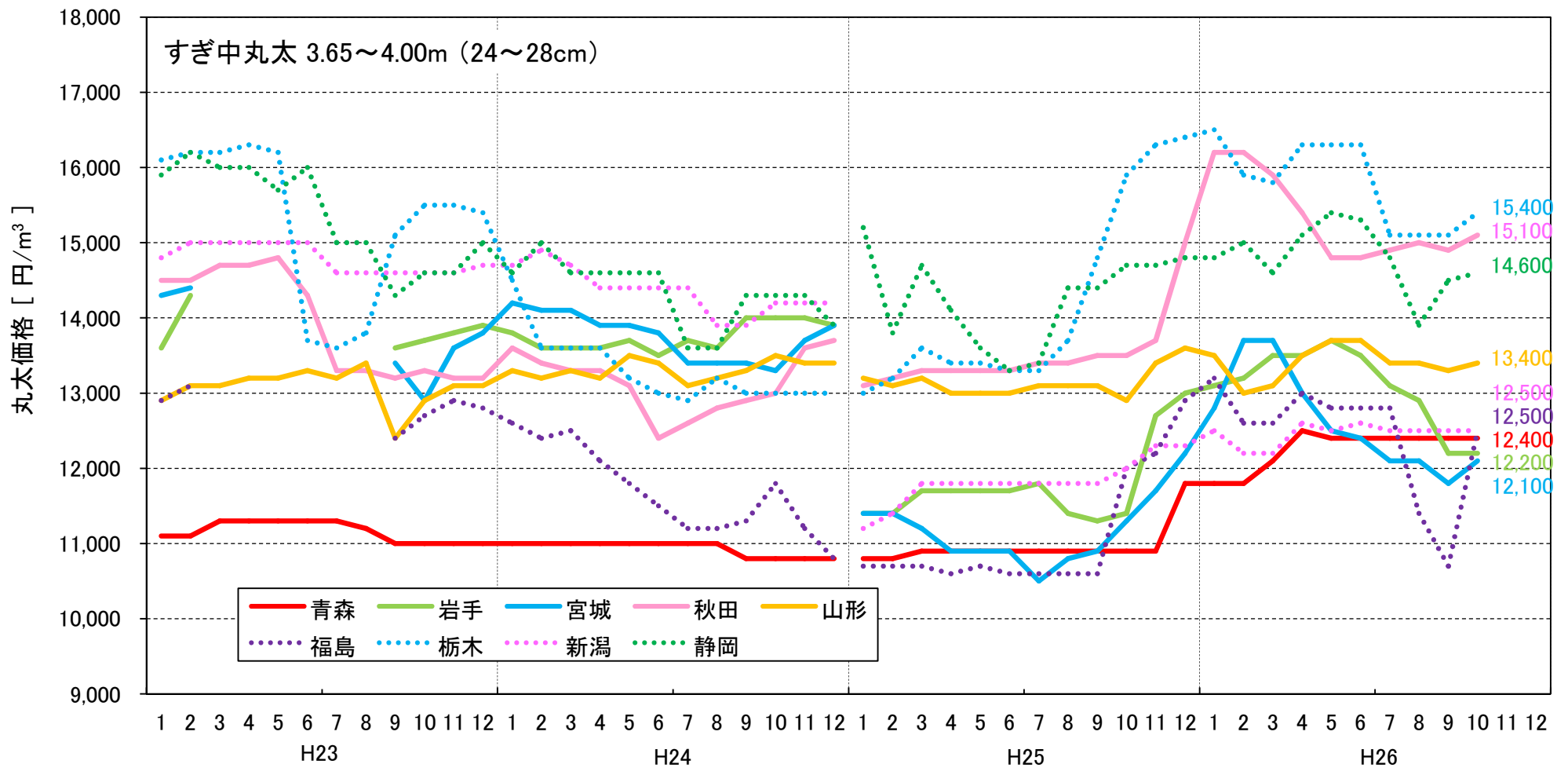
※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ 関東地方との木材価格の比較 (平成23年1月～平成26年10月)

○ 関東のすぎ中丸太の価格は、静岡は8月、福島は9月、栃木は7～9月を底に上昇傾向に転じている。

○ 東北では、9月以降上昇傾向。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 工場着価格。

※ 平成23年3～8月は東日本大震災の影響で、岩手県・宮城県・福島県のデータは未取得。

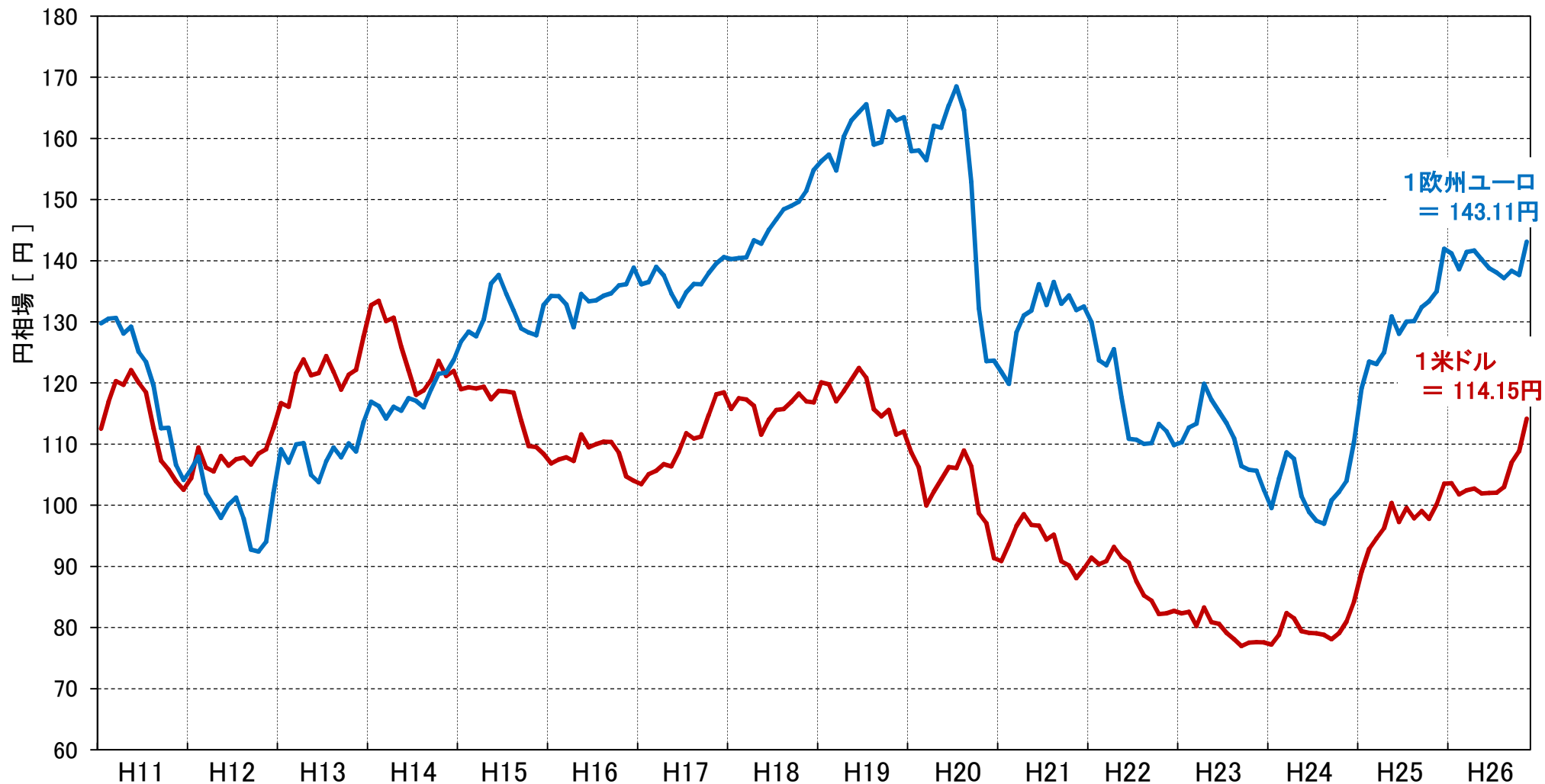
※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ 為替レートの推移（平成11年1月～平成26年11月（11日まで））

○長期的にみると為替は大きく変動している。

ここ数年に注目すると、欧州ユーロ、米ドルとも、平成24年夏を境に円安傾向に移った。

平成26年は、ユーロは緩やかな円高傾向、ドルは横ばいで推移していたが、夏以降円安が進行してユーロは平成20年と、ドルは平成19年と同水準となっている。

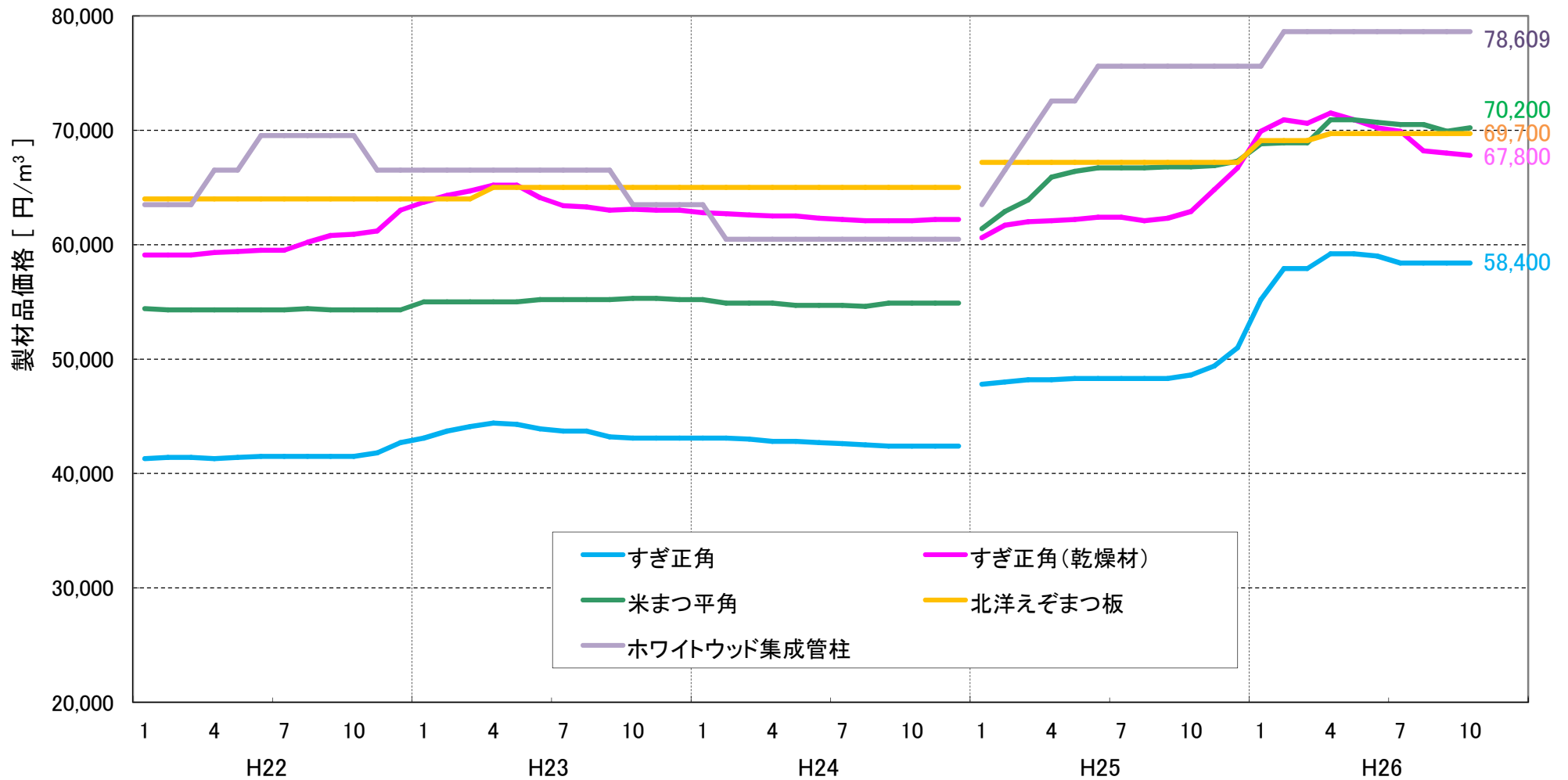


出典：Yahoo! ファイナンス（毎月の値は、月間の最高値と最低値の平均）

■ 全国の製材品主要品目価格の推移 (平成22年1月～平成26年10月)

○ スギ正角(乾燥)が4月以降連続下落し、ピーク時の-5%となった。

すぎ正角・ホワイトウッド集成管柱、北洋えぞまつ板は、米まつ平角はほぼ保合。



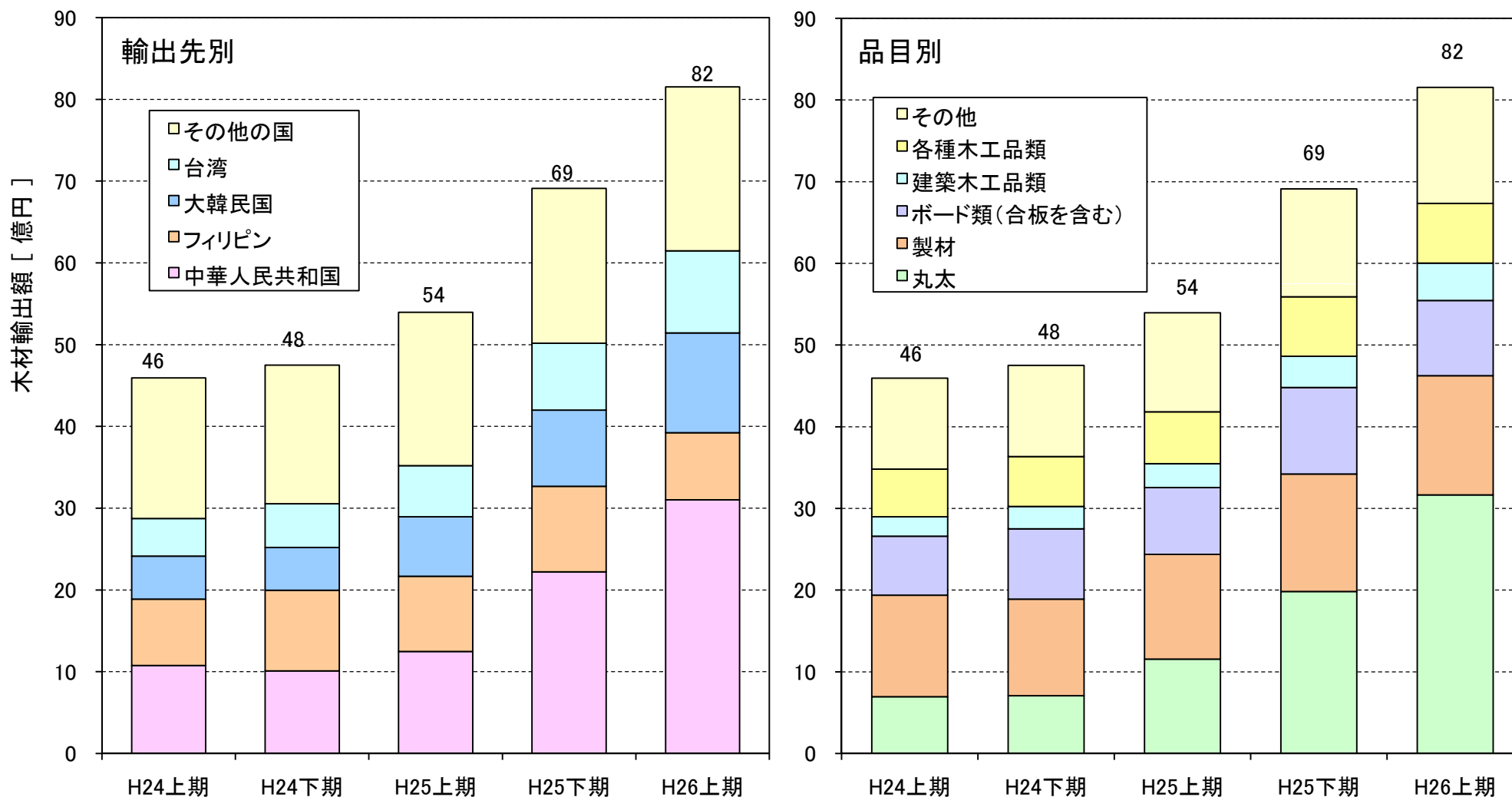
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。

※ 平成25年1月から集計方法を従来の単純平均から加重平均に変更したため、それまでのデータとは連続しない。

■ 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移（全国）

- 平成25年の輸出額は前年比+32%に増加し、26年上期も前年同期比+52%となった。
主要相手国は、中国・フィリピン・韓国・台湾で、26年上期では全体の約75%を占めている。
- 26年上期の品目別輸出額は、24年同期比で全体で+78%となり、内訳は丸太+355%、製材品+28%、ボード類+28%、建築木工品類+94%、各種木工品類+25%であった。



木材の主な輸出港(2013年税関別輸出額)(丸太、製材別の上位5港)

凡例
● → 丸太輸出港
● → 製材輸出港



(木材全体) (百万円)

順位	税関別	額
1位	鹿児島税関支署志布志	1,207
2位	大阪税関(本関)	1,169
3位	名古屋税関(本関)	1,137
4位	東京税関(本関)	988
5位	清水税関支署	869
	その他	6,937
計		12,307

(丸太のみ) (百万円) (m³)

順位	税関別	額	数量
1位	鹿児島税関支署志布志	1,147	104,627
2位	細島税関支署	425	39,915
3位	八代税関支署	312	28,464
4位	大分税関支署佐伯	171	16,477
5位	大分税関支署	136	11,427
	その他	948	63,805
計		3,139	264,715

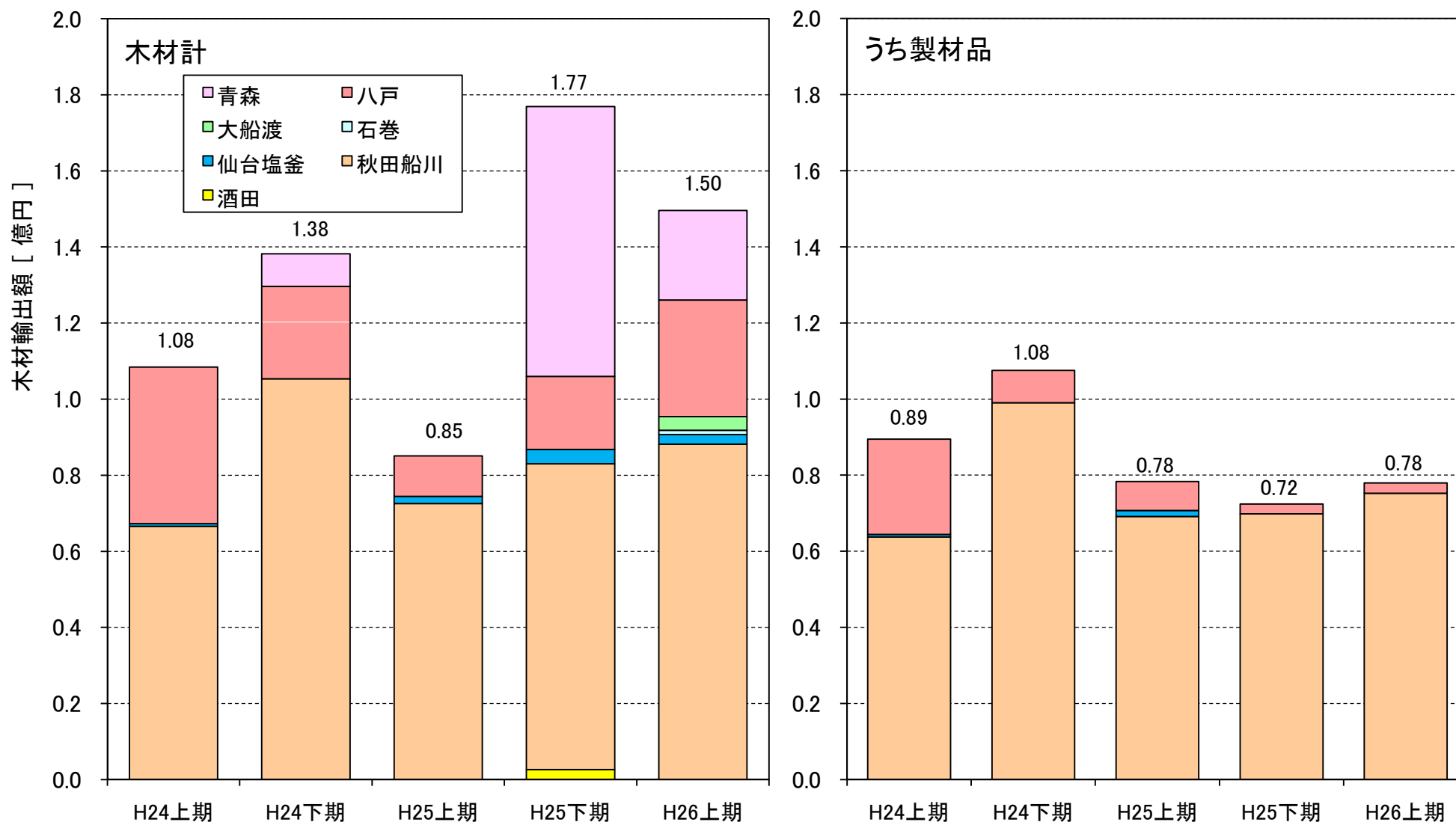
(製材のみ)

順位	税関別	額	数量
1位	博多税関支署	380	9,264
2位	名古屋税関(本関)	341	5,654
3位	東京税関(本関)	294	9,059
4位	四日市税関支署	281	7,105
5位	苫小牧税関支署	266	1,479
	その他	1,155	26,852
計		2,717	59,413

資料:貿易統計

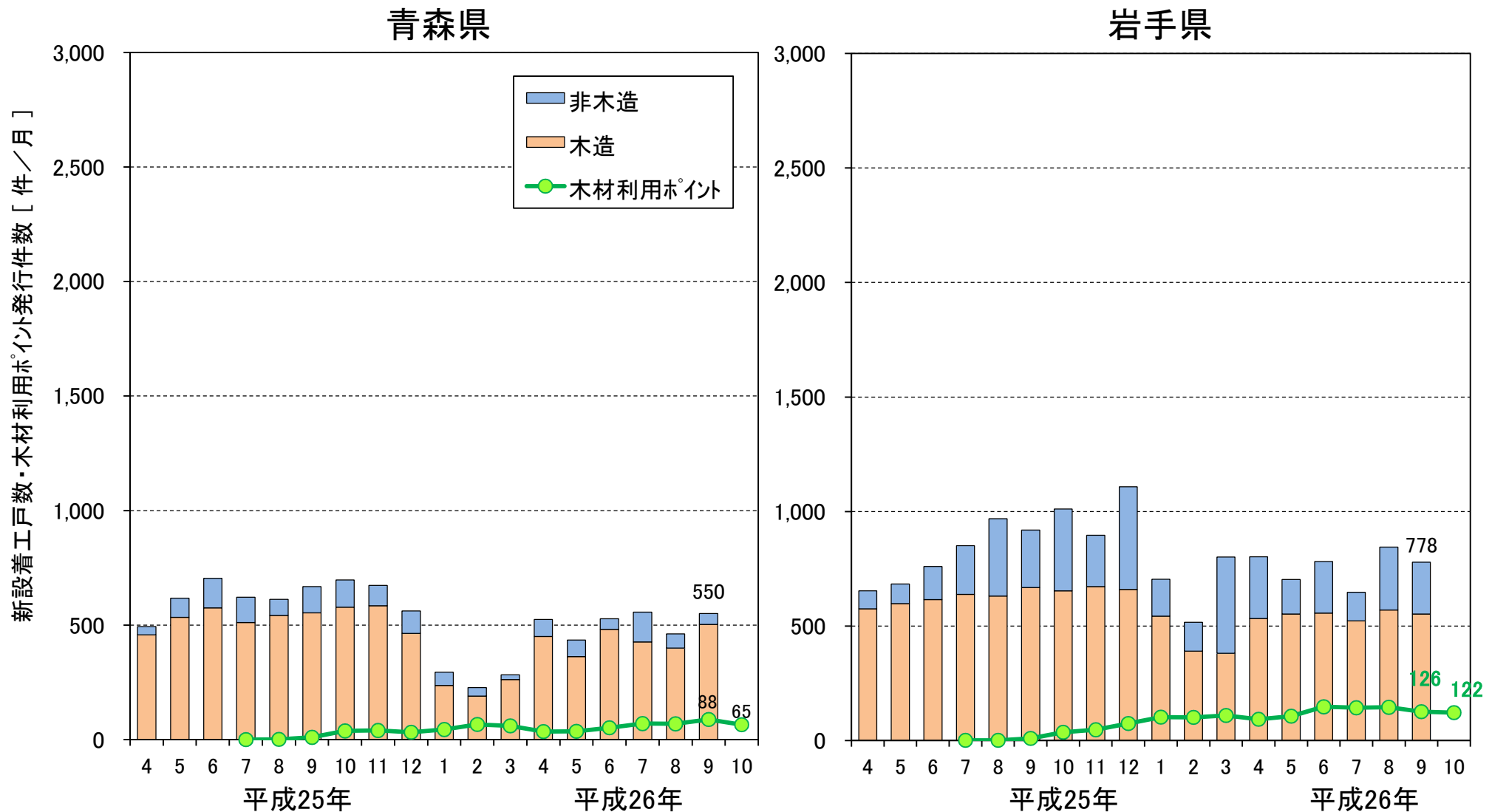
■ 東北5県における木材輸出額の推移

- 東北5県からの木材輸出は、秋田船川・青森・八戸の占める割合が高い。
なお、製材品以外は大半が丸太である。
- 製材品の輸出は秋田船川と八戸で大半を占め、25年上期以降は安定して推移している。



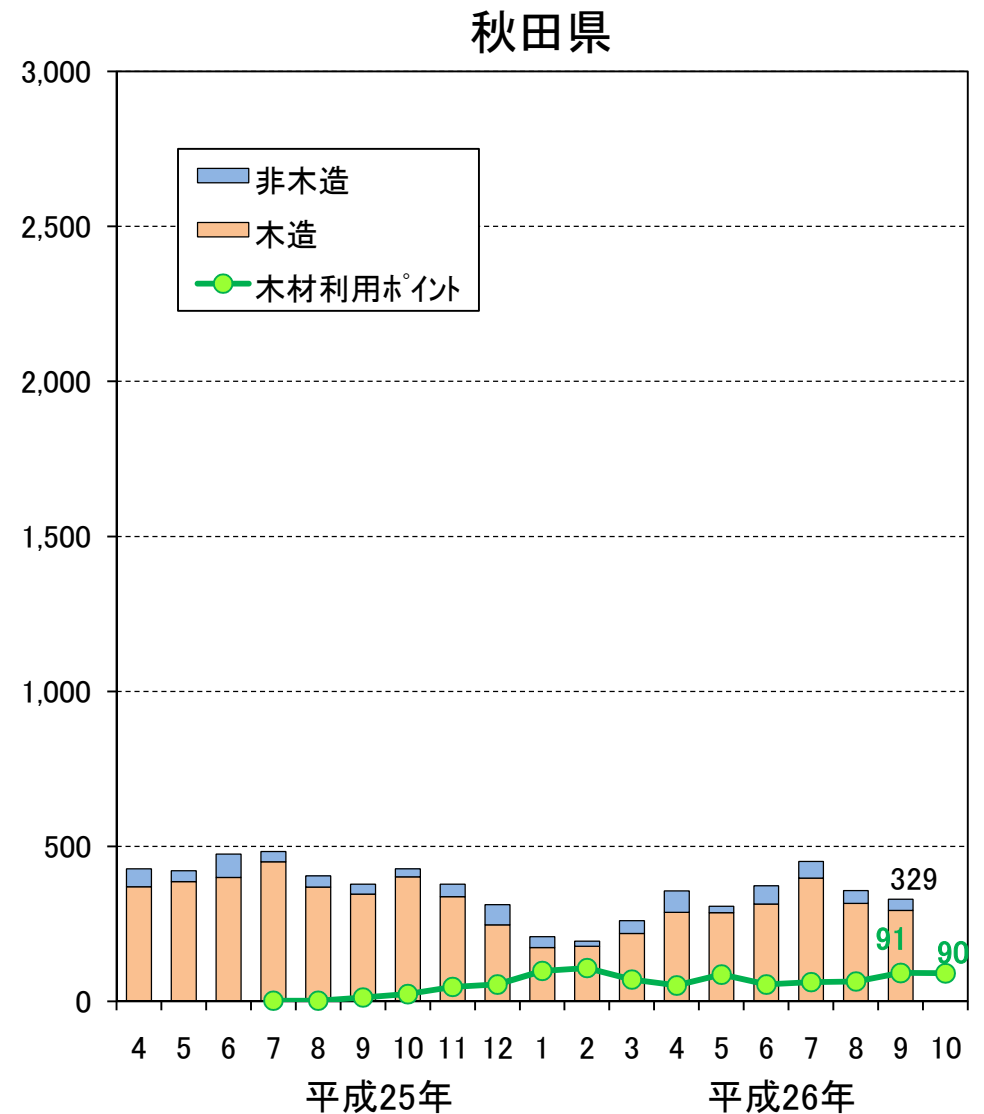
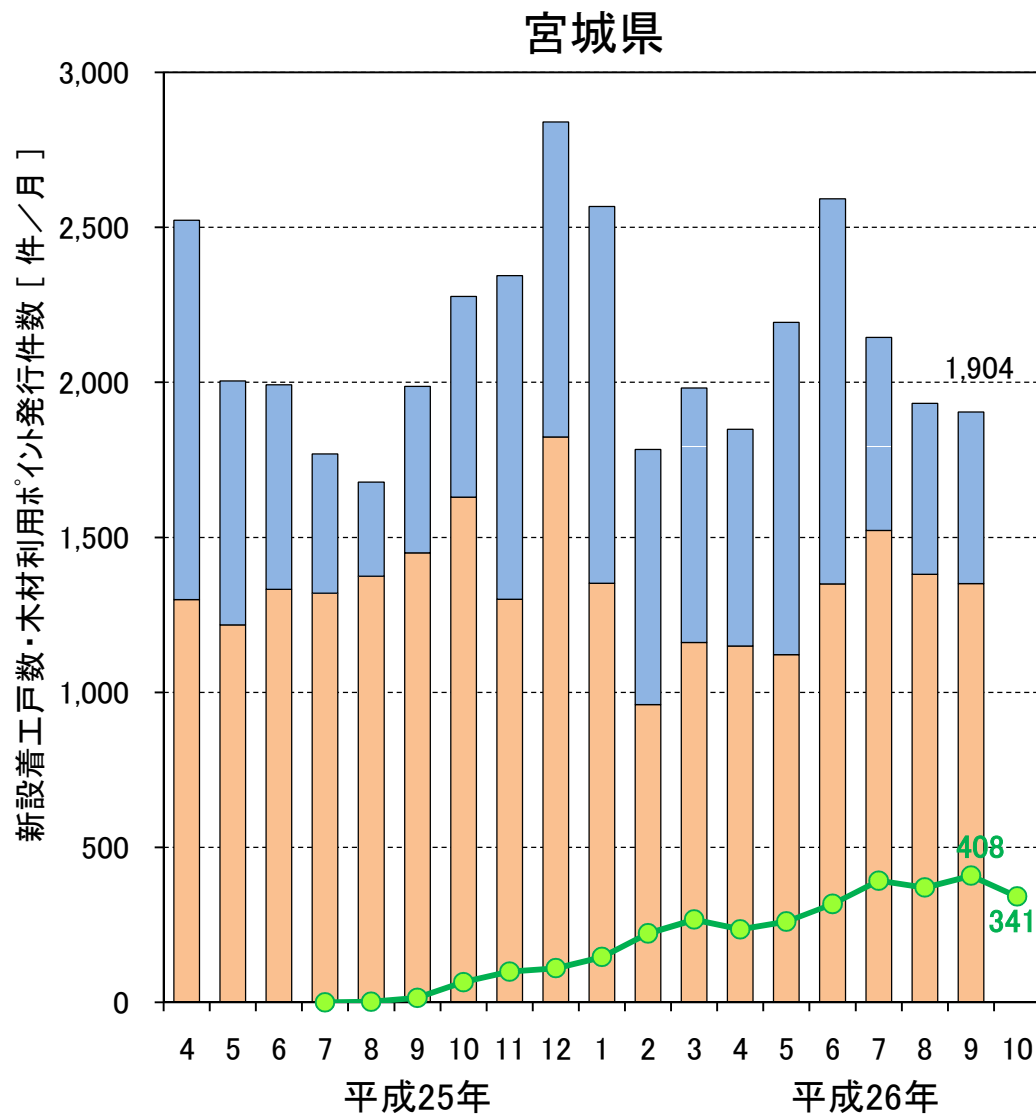
■ 青森県・岩手県の木材利用ポイント発行件数の推移（平成25年～26年）

- 青森県の発行件数は、9月に最多の88件となり、10月末現在で累計706件である。
- 岩手県の発行件数は、26年1月以降ほぼ100件台で推移し、累計1,362件である。



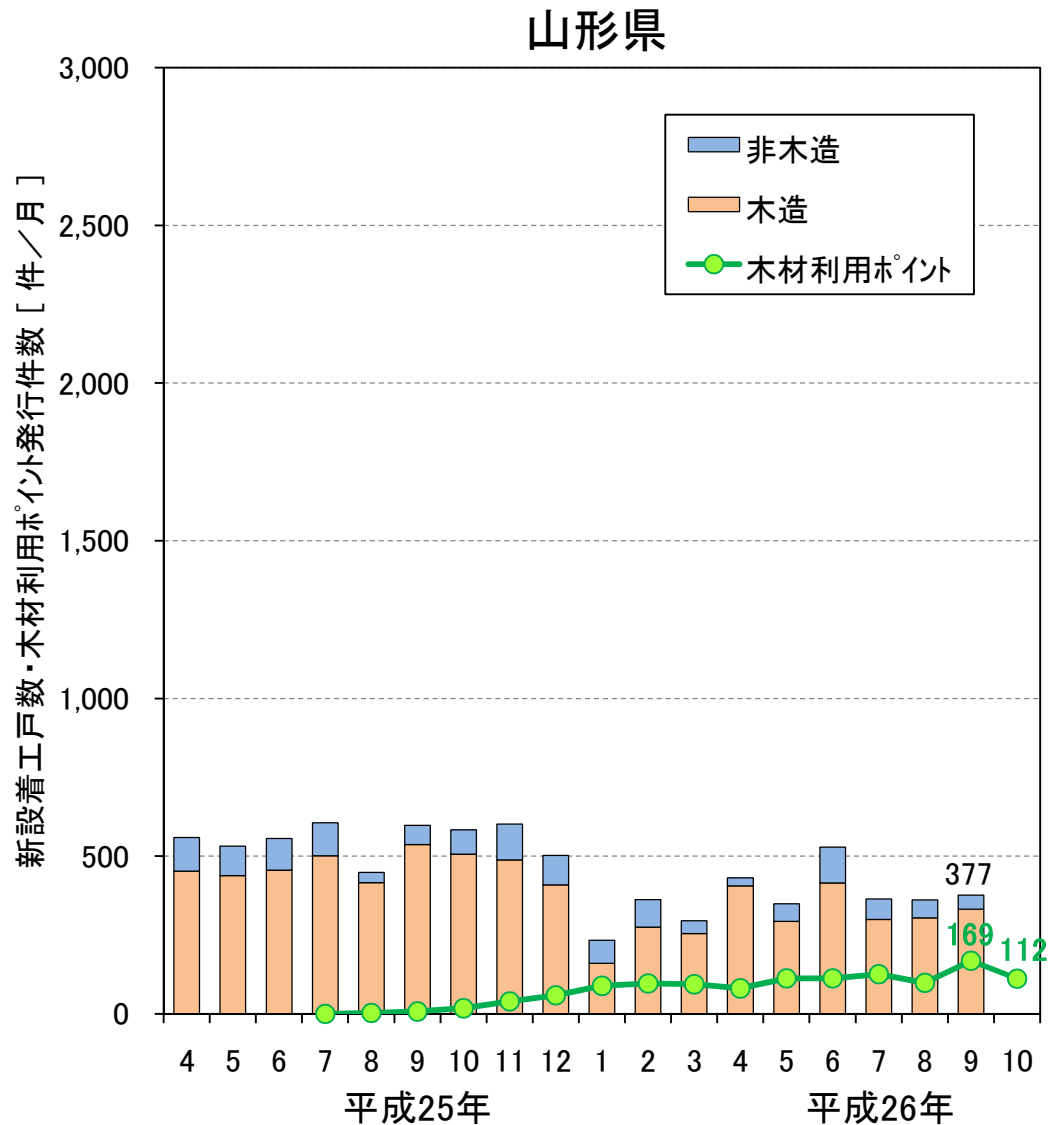
■ 宮城県・秋田県の木材利用ポイント発行件数の推移（平成25年～26年）

- 宮城県の発行件数は9月が最多の408件であり、10月末までに累計3,248件となっている。
- 秋田県の発行件数は9月が最多の91件であり、累計912件である。



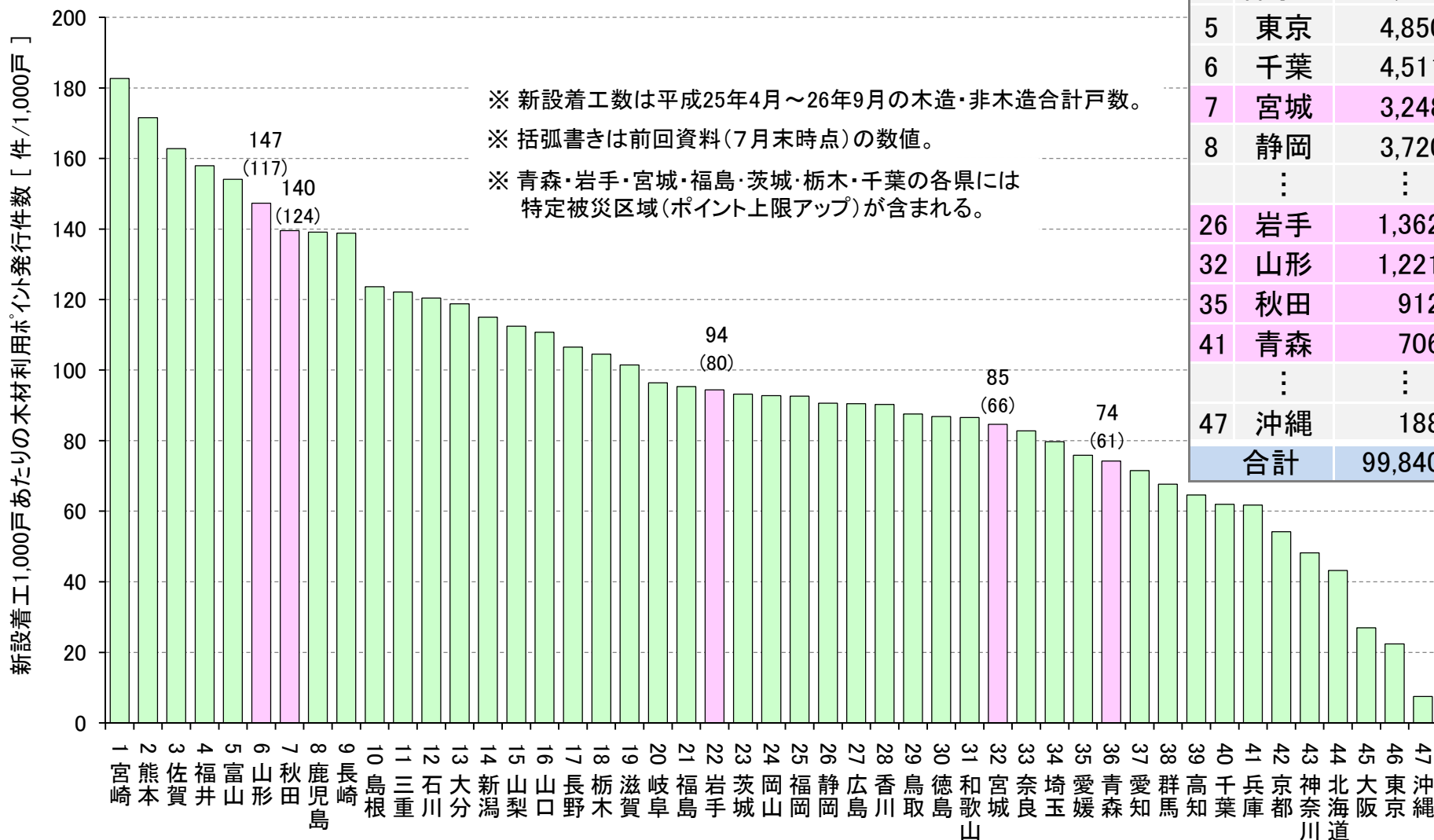
■ 山形県の木材利用ポイント発行件数の推移（平成25年～26年）

○ 山形県の発行件数は、9月が最多の169件であり、10月末までに累計1,221件である。



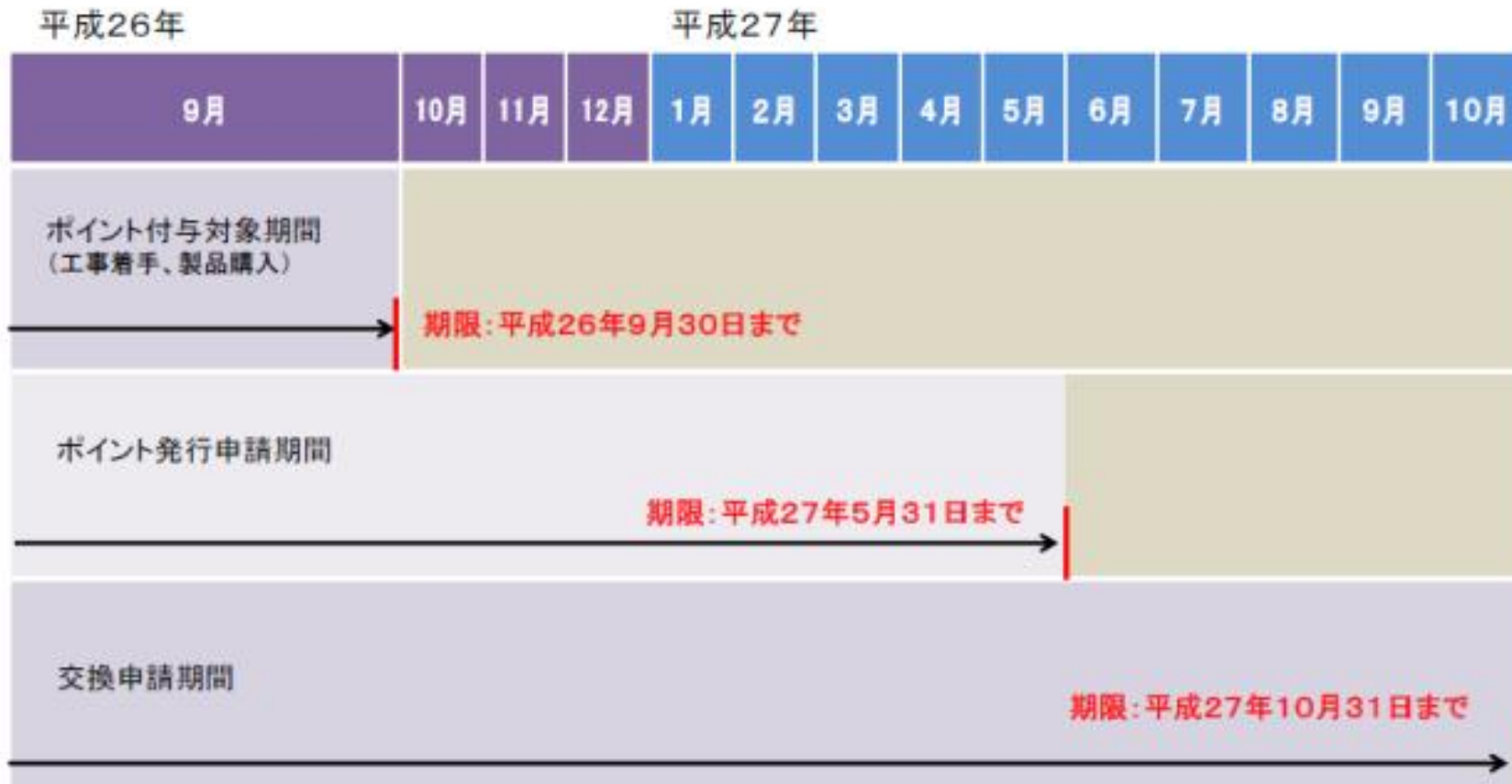
■ 木材利用ポイント累計発行状況（平成26年10月末日現在）

- 累計発行ポイント順では宮城、岩手、山形の順だが、新設着工戸数あたりに換算すると、山形、秋田、岩手の順となる。
- 新設着工戸数あたりの発行件数は、7月末時点と比べて5県とも増加した。



発行P順	発行件数 (件)	発行P (百万P)
1	埼玉	7,142
2	愛知	6,557
3	福岡	5,585
4	神奈川	5,180
5	東京	4,850
6	千葉	4,511
7	宮城	3,248
8	静岡	3,720
	：	：
26	岩手	1,362
32	山形	1,221
35	秋田	912
41	青森	706
	：	：
47	沖縄	188
	合計	99,840
		29,041

木材利用ポイント事業関係の主なスケジュール



木材利用ポイント基金・事務局閉鎖 平成28年3月31日